



sound mind, sound body

サステナビリティ レポート 2025

Table of Contents

Message From the CEO	3
ASICS at a Glance	4
アシックスのサステナビリティ	6
マテリアリティ評価	11
主要なKPI・目標および実績	13
People	
人と社会への貢献	15
Planet	
環境への配慮	34
Message From the COO	58
Appendices	59

Message From the CEO

私たちは、常に一步先を見据えて前進し続けています。本サステナビリティレポート2025では、「健全な身体に健全な精神があればし“Anima Sana In Corpore Sano”」という創業哲学のもと、2025年に人々の心身の健康と地球環境のためにアシックスが達成した着実な進捗をお伝えしています。サステナビリティは、アシックスがグローバルに統合された企業へと進化していく中で、企業戦略の中核を成す柱であり続けています。

2025年の売上高は8,109億円、営業利益は1,425億円に達し、いずれも4年連続で過去最高を更新しました。私たちは、持続的な成長と財務パフォーマンスは相互に強化し合うものであり、長期的な企業価値の創造は、すべてのステークホルダーからの信頼の上に成り立つと考えています。

なかでも、スポーツ企業として、スポーツを楽しめる環境を守り続けるため、気候変動への取り組みは、アシックスが果たすべき重要な責任であると認識しています。グローバル規模で事業を展開するにあたり、バリューチェーン全体との協働は不可欠です。2025年には、サプライヤーとのパートナーサミットを通じて、気候変動をはじめとする環境配慮に関する知識やベストプラクティスを共有する機会を設けました。また、サプライチェーン全体におけるCO₂排出量の測定精度と効率を高めるため、測定ツールの導入検討を開始しました。

お客様との取り組みも強化しました。例えば、「Run for Reforestation Challenge」では、ASICS Runkeeper アプリ

リを通じて102,711人がランニングやウォーキングに参加し、世界各地で102,711本の植樹につながりました。こうした取り組みは、責任ある事業活動を維持しながら、人々の心身の健康を促進し、地球環境を守るというアシックスのコミットメントを示しています。

バリューチェーン全体の多くの人々に支えられて事業を展開するアシックスにとって、人権の尊重も重要な取り組みであると考えられています。責任ある企業行動の推進に向け、ツールや期待事項、ベストプラクティスを共有することで、サプライヤーとのエンゲージメントを強化しています。さらに、100名を超える株主の皆様との対話を経て、2025年には長期的な企業価値創造に向けた重要な一歩として、一般財団法人 ASICS Foundationを設立しました。本財団の設立は、すべての人が運動・スポーツを通じて心身ともに健康な世界の実現をさせていくという、アシックスの強い決意を示すものです。

今後も、世界各地のサプライヤーやパートナーとの継続的な対話とエンゲージメントを通じて、透明性の向上や実行力の強化を図り、増加する国際的な期待やフレームワークとの整合を目指していきます。私たちは、人々の心身の健康の向上と地球環境の保全に向けた取り組みを一層推進してまいります。

代表取締役会長 CEO 廣田 康人



ASICS 2025 at a Glance

アシックスは、世界をリードするスポーツパフォーマンスとライフスタイルのブランドとして、世界中の人々が幸せで健康的な生活を送れるようサポートすることを目指しています。私たちは、創業哲学である「Anima Sana In Corpore Sano (健全な身体に健全な精神があれかし)」に則り、この目標達成に向けて取り組んでいます。

この目標追求と創業哲学の実践は、単なるビジネスの枠を超えており、サステナビリティへの取り組みこそが、アシックスの成長の鍵と位置づけています。2025年は第三者機関から高い評価をいただきましたが、これらの努力と私たちの進歩が反映されたものです。



業績



世界の拠点数
64



従業員数
9,455人



売上高
8,109億円

カテゴリー別 売上高

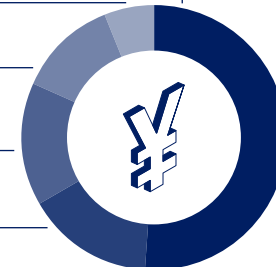
アパレル・エキップメント：
420億円

コアパフォーマンススポーツ：
860億円

オニツカタイガー：
1,365億円

スポーツスタイル：
1,413億円

パフォーマンスランニング：
3,635億円



社外からの評価

- 「Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index」の構成銘柄に選定
- S&P Global Sustainability Yearbook 2026 メンバーに選定



FTSE JPX Blossom
Japan Index

MSCI
ESG RATINGS



FTSE4Good

アシックスは、CDPの最高評価「気候変動Aリスト」に2年連続で認定されました。

気候変動対策をはじめとするサステナビリティを経営の中心に据え、気候関連のリスク・機会を事業戦略に統合し、サプライヤーをはじめとしたステークホルダーと連携しながら、バリューチェーン全体での温室効果ガス排出削減に努めていることなどが評価されたものと考えます。

*詳しくはプレスリリースをご参照ください→

2025年 サステナビリティ の主要指標

PEOPLE - 人と社会への貢献

	2024年実績	2025年実績
 OneASICS [™] 会員数	1,764万人 ^{※1}	2,313万人
 女性管理職比率	38.7%	41.0%
 従業員の エンゲージメント スコア	73	75
 障がい者雇用比率 (アシックス本社のみ)	3.1%	3.6%

PLANET - 環境への配慮

	2024年実績	2025年実績
 事業活動を通じた CO ₂ 削減率 (2015年比)	43.1%	44.8%
 事業所での 再生可能エネルギー由来 電力の使用率	36.8%	38.2%
 フットウェアの戦略的 一次生産委託工場での 再生可能電力の使用率	19.1%	24.1%
 Run for Reforestation Challenge 完走者数	95,950	102,711

※1 2024年度より、全社的なOneASICS経営を推進するため、中国、インドなどで展開するローカルプログラムの会員数を含めた会員数を集計しています。また、アシックスプライバシー方針に基づき、2年間利用されていないアカウントは無効化のうえ削除しています。

INTRODUCTION

アシックスの サステナビリティ

アシックスは、「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」を創業哲学に掲げ、人々の心と身体を支え、地球環境に配慮しながら事業の成長を推進しています。

この企業理念に基づき策定されたアシックスの価値創造戦略は、「中期計画2026」に明記されています。同計画では、事業戦略の中核としてサステナビリティとコーポレートガバナンスが、アシックスの企業価値創造の基盤であることを明確にしています。また中期計画2026では、2030年および2050年の長期目標に向けて、2026年の目標も明記しており、ここには2050年のネットゼロという排出目標も含まれています。

事業にサステナビリティを緊密に組み込むことで、人々の心身の健康と環境への配慮に取り組み、アシックスは発展を続けています。

＊価値創造プロセスについて、詳しくは「ASICS 統合報告書 2024」P30をご参照ください→

CHAPTER HIGHLIGHT

サステナビリティ活動の枠組み 7

バリューチェーンにおけるサステナビリティ 8

サステナビリティ方針とガイドライン 9

サステナビリティ活動の枠組み

2025 年も、サステナビリティ活動の枠組みは引き続き適用されました。「中期経営計画2026」に基づき、アシックスのサステナビリティ活動はビジネス戦略に統合されています。

サステナビリティ活動の枠組みは、People（人と社会への貢献）と Planet（環境への配慮）という、2つの柱に基づいています。このフレームワークを通じて人々の心身の健康向上を支え、私たち全員が健やかに暮らせる環境を目指しています。

活動の基盤となるのは、ダブルマテリアリティ評価によって特定された重要テーマです。（詳しくは 11 ページをご参照ください） また、これらのテーマは持続可能な開発目標（SDGs）とも関連しており、私たちの活動が世界の持続可能な開発に貢献していることを明確に示しています。

*詳しくはホームページ「サステナビリティ活動の枠組み」をご参照ください→



サステナビリティ活動の枠組み

1949 年の創業より、アシックスの使命は人々の心と身体を健康にすることです。そのためには、快適に走れる健やかな地球環境が不可欠です。健全な心身、健やかな環境が将来世代まで続くよう私達は取り組んでいます。

2つの柱

People（人と社会への貢献）

Planet（環境への配慮）

お客様／コミュニティ

スポーツの力で地域社会に貢献し、明るく健康的な社会に貢献します

従業員

従業員の意欲を高め、個人の成長とともに会社が成長できる企業文化の醸成を目指します。多様性を受け入れ、従業員一人ひとりが互いに尊重し、個性と創造性が発揮できる環境を整えていきます

サプライチェーン

透明性が高く、公正で倫理的なパートナーシップを構築し、製造工程の人々の人権を擁護します

製品

製造工程での温室効果ガス排出量削減や、環境に配慮した製品設計・材料選定により、環境負荷の低減を目指します

事業運営

事業活動における再生可能エネルギーの使用拡大や、エネルギー使用量の削減などにより、温室効果ガス排出量削減に取り組みます

フォーカスポイント

心身の健康

公正で倫理的なサプライチェーン

気候変動への対応 循環型ビジネス

SDGsへの貢献



バリューチェーンにおけるサステナビリティ

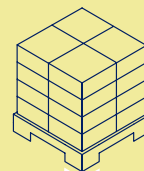
パートナーシップを組むサプライヤーから、心身の健康向上のためにアシックスの製品とサービスをご利用いただくお客様に至るまで、アシックスは広範なバリューチェーン全体を通して人々と環境に影響を与えています。サステナビリティ戦略と活動は、このバリューチェーンにおけるアシックスの立ち位置を反映しており、上流・下流におけるポジティブな影響の拡大とネガティブな影響の低減を目指しています。



バリューチェーン全体でサステナビリティを推進

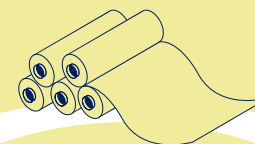
原材料

リサイクルまたはバイオベースのポリエステル材や発泡材など、より持続可能な主要材料を使用しています。



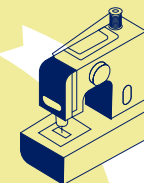
材料加工

品質および安全性についての規格に準拠し、生産工程における資源消費と温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。



製品製造

サプライヤーとの協力関係を通じて環境への影響を削減し、サプライヤーによる再生可能な代替エネルギーの採用を奨励しています。



廃棄物とリサイクル

パートナーシップと回収プログラムを通じて、循環型ビジネスを支援しています。



サプライヤーとの協働

透明、公正かつ倫理的なパートナーシップで人々を支援しています。

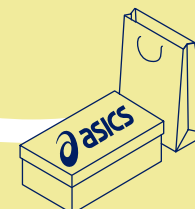


製品の使用

製品の安全性と品質を重大な責務ととらえ、事業全体でそれらの保証に関する方針や、国際的品質管理原則に基づくガイドラインを定め、すべての製品がお客様にとって安全であるよう努めています。日本の一部製品では修理サービスを実施しています。

販売

店舗ではエネルギーを効率的に使い、店舗内の備品は可能な限り再利用し、より環境への影響が少ない店舗設計や店舗運営に努めています。



配送

サプライヤーと協力して、環境への影響が少ないパッケージへの移行など、最も効率的な方法で製品をさまざまな市場に輸送しています。



サステナビリティ方針とガイドライン

アシックスでは、共通のサステナビリティ目標に向けて協力できるよう、方針とガイドラインを設定しています。これらの方針とガイドラインは、アシックスの従業員、サプライヤーおよびビジネスパートナーに対し、アシックスが環境を守り、人々の心身の健康を保ちながら、製品を企画、製造および販売する方法を明確に示しています。

アシックスは、方針とガイドラインを事業の中核に組み込むため、従業員やサプライヤー、ビジネスパートナーに対してもトレーニングを実施しています。

方針		
アシックス	ビジネスパートナー管理 (含サプライヤー)	材料調達
アシックスCSR方針 →	ビジネスパートナー管理方針 (サプライヤー向け行動規範) →	アシックス材料選定ガイドライン
アシックスグローバル行動規範 →	工場CSRコンプライアンス管理ガイド	制限化学物質に関する方針
グローバル反トラスト・競争方針 →	アシックスグローバル工場選定ガイドライン	動物由来の材料に関する方針
グローバル賄賂防止・腐敗行為防止方針 →	委託先工場の撤退・縮小時の対応ガイドライン	紛争鉱物に関する方針
グローバル環境方針 →	グリーン調達方針	リサイクル材料に関する方針
グローバルプライバシー方針 グローバル内部通報方針 →	アシックス購買方針 →	綿に関する方針
アシックス人権方針 →		サステナブルパッケージ方針
コミュニティエンゲージメントガイドライン		材料調達方針



サステナビリティの管理

アシックスでは、強固なサステナビリティ・ガバナンス体制に基づき事業にサステナビリティを組み込んでおり、取組みの加速を促しています。ガバナンス担当部門は、戦略の監視、重要課題についての助言、活動の検証、苦情処理および方針違反への対処を行っています。

→ 取締役会

代表取締役会長CEOが議長を務め、気候変動への対応、人権などを含む、アシックスのサステナビリティ戦略を監督し、事業へのサステナビリティの反映を進めています。最高管理責任者（常務執行役員CAO）とサステナビリティ部長は、サステナビリティ委員会とリスクマネジメント委員会からの情報をもとに、サステナビリティに関するリスクと機会について、取締役会に少なくとも年に2回報告します。

→ サステナビリティ委員会

CEOが委員長を務めるサステナビリティ委員会は、執行役員、部門長および各地域統括組織の責任者で構成されています。委員会は、気候関連の機会を管理するとともに、CO₂排出量削減目標の評価および進捗管理に責任を負っており、取締役会に報告を行います。また、マテリアリティ評価や事業戦略へのサステナビリティの統合についても責任を担っています。

→ リスクマネジメント委員会

代表取締役社長COOが委員長を務めるリスクマネジメント委員会は、執行役員および部門長で構成されています。委員会は、気候関連リスクや人権リスクを含む各種リスクの特定および評価を行うとともに、リスク低減に向けた取組みをレビューし、その進捗をモニタリングし取締役会に報告を行います。

→ サステナビリティ部

サステナビリティ部は、CEO、COOおよびCAOに直接報告を行い、マテリアリティ評価に基づく中長期的なサステナビリティ戦略の策定および管理に責任を負っています。気候変動への対

応は、アシックスの重要なトピックの一つです。部は、サステナビリティ委員会のメンバーによる議論をサポートし、情報や意見を提供するとともに、目標、ロードマップ、および行動計画に関する進捗状況を報告します。

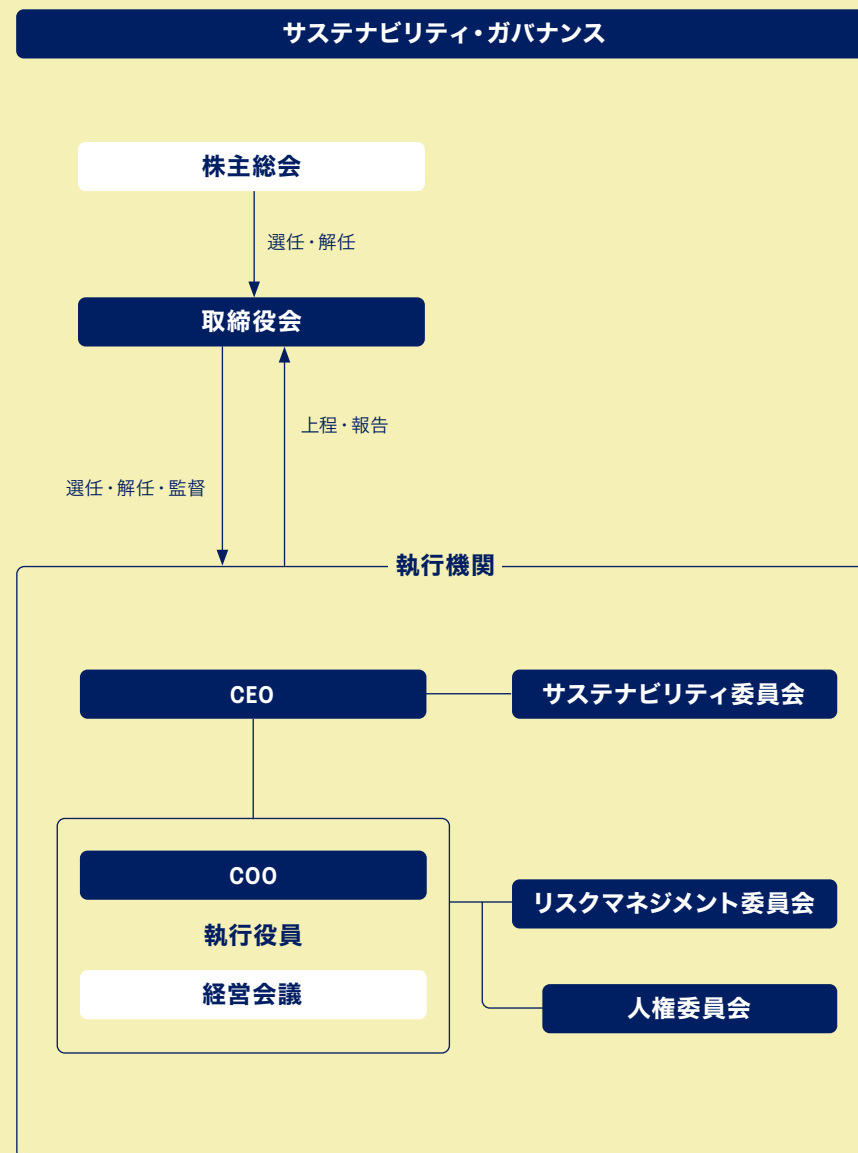
→ 人権委員会

人権についての助言、人権デュー・ディリジェンスの実施状況管理、およびアシックスの人権方針アクションの有効性についての評価を行います。

→ 重大な問題への対処方法

アシックスのグローバル内部通報制度は、懸念事項を通報するために、アシックスの従業員、子会社、サプライヤー、およびパートナーの全員が利用できます。すべてのステークホルダーは、匿名で報告することができるこの内部通報システムを利用することが奨励されています。通報があった場合は、「グローバル内部通報方針」に定める手順に基づき、管轄する地域コンプライアンス委員会が速やかに対応します。重大な事案と判断された場合は、最終的にアシックス本社の取締役会へ報告されます。

*詳しくはホームページ「グローバル内部通報方針」をご参照ください→



2026年1月1日付で、サステナビリティ委員会およびリスクマネジメント委員会の委員長は、CAOが務めています。

マテリアリティ評価

創業哲学「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」に基づいて活動することは、最優先事項に注力することを意味します。人々が幸せで健康的な生活を送れるよう支援し、環境に配慮しながら事業の成長を遂げるために、私たちは、最も重要な影響・リスク・機会（IRO）に注力しています。

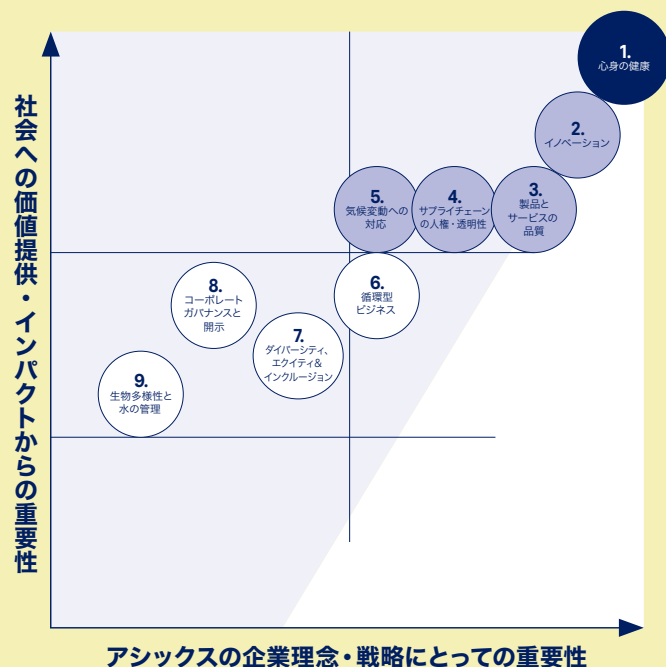
年次レビューと3年ごとの包括的なレビューを含む、定期的なダブルマテリアリティ評価（DMA）を通じて、これらの重要テーマを特定しています。2025年、外部ステークホルダーへのインタビューを含むDMAを実施しました。今回の評価の結果でも、マテリアリティ・マトリックスの内容に変更はなく、アシックスが引き

続き最も重要なテーマに注力していることを再確認しました。

現在、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）に準拠した開示に向けた準備を進めるとともに、ダブルマテリアリティ評価（DMA）の再検証プロセスを通じて、影響・リスク・機会（IRO）の特定をより精緻に進めています。

[*詳しくはホームページ「マテリアリティとリスク・機会」をご参照ください→](#)

マテリアリティ・マトリックス



マテリアリティ

アシックスは、社会への価値提供・インパクトからの重要性、並びにアシックスの企業理念・戦略にとっての重要性という観点からテーマをマッピングし、できあがったマトリックスにより、アシックスが着目すべき、最も重要なテーマを明らかにしました。

このマテリアリティ・マトリックスは、以下のような重要なテーマとアシックスの企業戦略とのつながりを示すものとなっています。

- ① 心身の健康
- ② イノベーション
- ③ 製品とサービスの品質
- ④ サプライチェーンの人権・透明性
- ⑤ 気候変動への対応
- ⑥ 循環型ビジネス
- ⑦ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- ⑧ コーポレートガバナンスと開示
- ⑨ 生物多様性と水の管理

マテリアリティ評価は、毎年経営会議で承認を受け、3年ごとに取締役会によって承認を受けています。

バリューチェーンでのマテリアリティ

アシックスの影響、リスク、機会は、直接的な事業活動を超えたところにまで波及しているため、事業を展開するバリューチェーン全体において重要なテーマを特定・評価しています。以下の図はアシックスの重要テーマのバリューチェーンの座標軸における位置づけを示しています。影響、リスク、機会をこのように位置づけることで、スポーツができる環境を守るとともに、人々の心身の健康向上を目指しています。

	原材料 (三次委託先以降)	材料サプライヤー (二次委託先)	生産委託先工場 (一次委託先)	アシックス	販売	お客様	廃棄物とリサイクル
	材料と製品を製造するために使用される、未加工の原材料または原料	アシックスの製品に使用される材料サプライヤー	アシックス製品の製造に関与しているサプライヤー	アシックスグループのすべてのオフィス(物流を含む)	製品を販売する取引先 (直営店・オンラインショップを含む)	アシックス製品およびサービスを購入または使用する人々	製品としての最終段階を意味し、お客様のニーズまたは期待に応えられなくなった状態
優先度が高い 重要テーマ	心身の健康						
	イノベーション						
	製品とサービスの品質						
	サプライチェーンの人権・透明性						
	気候変動への対応						
重要テーマ	循環型ビジネス						
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン						
	コーポレートガバナンスと開示						
	生物多様性と水の管理						

主要なKPI・目標および実績

マテリアリティ&アプローチ	KPI&目標		2025年実績 (2024年との比較)	
心身の健康 誰もが一生、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指す。	OneASICS 会員数 3,000万人 (2026)		OneASICS 会員数 2,313万人 (2024: 1,764万人)	
製品とサービスの品質 製品・サービスの安全性、品質、機能性を追求し、人々の心身の健康向上に貢献する。	100% 2026年に規制対象地域におけるPFAS製品を全廃 (2026年以降: 100%を継続達成)	100% 2028年にグローバルでPFAS製品を全廃 (2028年以降: 100%を継続達成)	100% 規制対象地域におけるPFAS製品を全廃 (2024年: 該当なし)	99.7% グローバルでPFAS製品を削減 (2024年: 該当なし)
サプライチェーンの人権・透明性 サプライチェーンで働く人々の人権とウェルビーイングを尊重するとともに、バリューチェーンの透明性と持続可能性の向上を目指す。	100% アシックス基準以上の一次生産委託先工場の割合 ^{*1} を達成		100% アシックス基準以上の一次生産委託先工場の割合 (2024年: 97%)	
気候変動への対応 バリューチェーン全体でCO ₂ 排出量を削減し、運動・スポーツができる環境を守る。	63% 事業所およびサプライチェーンでのCO ₂ 排出量を削減 (2015年比)	100% 2030年までに事業所での使用電力を再生可能エネルギーに切り替え	44.8% (Scope 1・2) CO ₂ 排出量削減率 [2024年: 43.1% (Scope 1・2)、14.9% (Scope 3)]	5.1% (Scope 3) 38.2% 事業所での再生可能エネルギー由来電力の使用率 (2024年: 36.8%)
イノベーション Human Centric Science (人間中心の科学) や蓄積されたデータ、デジタル技術を活用した革新的な製品・サービスで人々の心身の健康向上に貢献する。	イノベーションはアシックスのあらゆる活動の根幹です。 まず解決すべき本質的な課題や問いを明確にすることから、イノベーションへの取組みを進めています。 *詳しくはホームページ「イノベーション」をご参照ください →			

※1 継続的な数値目標であるため、目標年度は設定していません。

主要なKPI・目標および実績

マテリアリティ&アプローチ	KPI&目標	2025年実績 (2024年との比較)
循環型ビジネス 使用する素材を減らして長く使える製品を生産し、資源を循環させ、CO ₂ 排出量などの環境負荷を低減する。	100% 2030年までにシューズおよびウェアのポリエステル材を再生ポリエステル材に切り替え 3地域 製品や材料を再利用またはリサイクルするため製品回収プログラムを実施	>50% シューズおよびスポーツウェアにおける再生ポリエステル素材の使用率 (2024年：>50%) 4地域 製品や材料を再利用またはリサイクルするため製品回収プログラムを実施 (2024年：4地域)
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン 多様な人財が公平に活躍してイノベーションを加速する、エンゲージメントの高い組織を実現する。	40% 2026年までに 管理職に占める女性比率 70 2026年までに 従業員エンゲージメントスコア 4%^{※1} 2026年までに 障がい者雇用率	41% 管理職に占める女性比率 (2024年：38.7%) 75 従業員エンゲージメントスコア (2024年：73) 3.6%^{※1} 障がい者雇用率 (2024年：3.1%)
生物多様性と水の管理 自然資本への影響を最小限に抑え、持続可能性を向上する。	自然資本への影響を最小限に抑え、持続可能性の向上を目指しています。 *詳しくはホームページ「生物多様性と水の管理」をご参照ください → *詳しくは本レポートのP54ご参照ください →	
コーポレートガバナンスと開示 ガバナンスを強化するとともに、ステークホルダーとの対話を深め、財務・非財務情報を透明性高く開示する。	健全かつ透明性の高い経営を実現するコーポレートガバナンスの構築に、引き続き尽力してまいります。 *詳しくはホームページ「コーポレートガバナンス」をご参照ください → *コーポレート・ガバナンスに関する報告書について →	

※1 アシックス本社のみ。

WELCOME TO THE PEOPLE CHAPTER

Supporting People for a Sound Mind in a Sound Body

PEOPLE - 人と社会への貢献

チャプターハイライト

心身の健康 **17**

サプライチェーンの
人権・透明性 **24**

ダイバーシティ、エクイティ&
インクルージョン **31**

PEOPLE — 人と社会への貢献

人々の心身の健康を支えることは、アシックスの事業の核となるものです。アシックスの使命は、人々の健全な心と身体の実現をサポートすることで、人々にポジティブな影響をもたらす取り組みを行うことです。

心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指す

アシックスは、「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」を創業哲学に掲げ、人々が幸せで健康な生活を送れることを何よりも大切にしています。

こちらでは、心身の健康、サプライチェーンの人権・透明性、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの取り組みについて説明しています。

人と社会への貢献では、誰もが一生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指しています。具体的には、製品やサービスを通じてお客様やコミュニティ、従業員、サプライチェーンで働く人々の心身の健康と、人権尊重に取り組んでいます。

目標	2025実績
OneASICS会員数 (Sound Mind, Sound Bodyプラットフォーム)	→ 2,313万人
支援プロジェクト数	→ 70プロジェクト
コミュニティへの貢献	→ US \$811,013 従業員のボランティア活動時間: 3,965時間
アシックス基準以上の 一次生産委託先工場の割合	→ 100%
サプライヤー向け研修参加者数	→ 180人
女性管理職比率	→ 41%



心身の健康

アプローチ

誰もが生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指します。

＊詳しくはホームページ「心身の健康」をご参照ください→



2025年の主な活動

- 「Everyday Escape」を立ち上げ、心身の健康を実証する取組を実施。
- 東京デフリンピックをトータルサポートメンバーとして支援。
- 一般財団法人ASICS Foundationを設立。
- コミュニティへの資金援助ならびにコミュニティへの資金援助とスポーツ用品提供を実施。
- 従業員の健康を人的資本戦略の中核に据え、ウェルビーイング推進部を設立。

2026年以降の計画

- 「Sound Mind, Sound Body」プラットフォーム：統合的な心身の健康への策を通じて、ポジティブな変化を促進する。
- コミュニティエンゲージメント：消費者や従業員との協働を通じて、事業を展開する地域社会へ貢献する。
- 全社横断的なウェルビーイング戦略を構築。従業員のストレス軽減とモチベーション向上を図り、長期的なエンゲージメントの維持・強化につなげる。

人々の健康で幸せな生活をサポート

心身の健康は、アシックスが最も重点を置くテーマです。アシックスは「健全な身体に健全な精神あれかし(Anima Sana In Corpore Sano)」を創業哲学に掲げており、事業活動のすべての根幹になっています。ステークホルダーの皆様が心身の健康を重視されていることを踏まえ、製品やサービスにとどまらず、研究やその他の取組みへと拡げています。

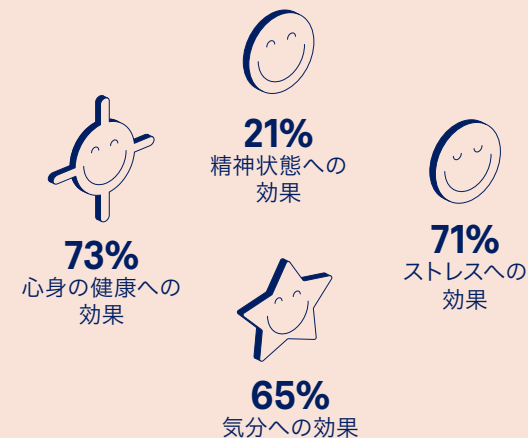
アシックス創業者の精神に則り、運動・スポーツに関わる社会課題にも取り組むことで、より多くの人々の心身の健康に貢献することがアシックスの使命であるとの想いから、一般財団法人ASICS Foundationを設立しました。すでに最初の6件の助成金を申請者に交付しており、活動に取り組んでいます。

また、2026年にOneASICS会員数3,000万人という目標を掲げ、2025年も会員数の増加を継続しました。



ASICS Everyday Escape Trial : 調査結果

アシックスは、英国、米国、オーストラリアの17名を対象に「Everyday Escape」の試験を実施し、以下のような効果が期待できると回答が得られました。



[*詳しくはホームページをご参照ください→](#)

お客様の心身の健康に貢献する

Everyday Escapeメンタルヘルスデーで手軽な運動を推奨

心身の健康へのケアは、誰もが手軽にできるべきです。2025年にアシックスが実施した調査では、毎日15分程度の簡単な運動を行った参加者が、心身のリフレッシュを目的とした旅行に出かける場合と比較して、総合的な精神状態が向上したと報告しています。

世界メンタルヘルスデーに合わせて、心と身体の間に関わる取り組みをさらに進めることを目的として、Everyday Escapeを立ち上げました。16カ国11,000人を対象とした世界規模の調査に加え、アシックスは英国、米国、オーストラリアからの参加者17名を対象として実証試験を実施しました。この分野の専門家であるブレンドン・スタブス博士（キングス・カレッジ・ロンドンおよびウィーン大学所属）の監修のもと、毎日15分間の運動と旅行に出かける場合の比較試験を行いました。

アシックスは、どんなに短時間の運動でも、人々の心地よさを支える力があると信じ、その価値を大切にしてきました。世界メンタルヘルスデーには、是非私たちと一緒に*Everyday Escape*を体験してください。体を動かすことは、心を動かすことにつながります。

グローバルマーケティング部 統括部長 Gary Raucher

その結果、毎日15分程度の簡単な運動を行う方が、旅行に出かけるよりも、総合的な精神状態が21%も向上したと報告しています。また、71%が「日々の運動はストレス軽減により効果的だ」と答え、65%が「気分を高める効果が高い」と感じ、73%が「旅行に出かけるよりも、

より長く精神的な充足感を感じた」と回答しました。

日常生活に運動を取り入れることを促すため、俳優、作家、そしてウェルネスの提唱者のナターシャ・ロスウェル氏をEveryday Escape Conciergeに起用しました。この取り組みにより、誰もが手軽にでき、かつ手頃な価格で心身の健康づくりを楽しめるようになり、「日常の雑事を忘れて心身を解放するために遠くへ行く必要はない」ということが示されました。参加者の5人に4人（81%）が、ウェルネス・リトリートへの参加よりもこの毎日の運動を優先しています。

[*詳しくはホームページをご参照ください→](#)

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

愛犬との運動が心の健康を支える

アシックスはMind's Best Friendを立ち上げました。愛犬が人々の運動と心の健康に与えるポジティブな影響を実証するための取り組みです。

キングス・カレッジ・ロンドンのブレンドン・スタブス博士と協力し、14カ国で28,000人を対象としたグローバル調査を実施しました。

その結果、犬を飼っている人の65%が、愛犬が運動の主な動機付けとなっていると回答しました。また、犬を飼っている人は週平均210分運動しており、飼っていない人と比較して身体活動ガイドラインを達成する確率が31%高くなっています。愛犬との運動は、心の健康にも大きな効果をもたらしています。:79%の飼い主が愛犬と一緒に運動した後、ストレスが軽減したと感じ、83%の飼い主がよ

り幸福感が向上したと回答しています。これらの回答から、犬を飼っている人のState of Mindのスコアが、犬を飼っていない人に比べて18%高い結果となっています。

参加者は愛犬をASICS Mind's Best Friendの公式アンバサダーに推薦できます。アシックスは、サモエド犬フェリックスを公式ブランドアンバサダーとして起用し、犬をアンバサダーに起用した初のスポーツブランドとなりました。

[*詳しくはホームページをご参照ください\(英語\)→](#)



お客様の健康にフォーカスした新感覚アクティビティ

アシックスジャパンは、自然と身体を動かしたくなるような感覚体験型のプログラム「DISCOVER. by ASICS」では、ユニークなアクティビティを通じて、お客様がご自身の身体のリズムに合わせて体を動かす機会を提供しました。

本プログラムは、2025年6月から10月の間フラッグシップストアASICS GRAND FRONT OSAKAで展開しました。来店されたお客様は、4つの各フィールドでは、ウォームアップから始まり、内なる自分とつながる(CHECK-IN)、日常の雑音を遮断して感覚を研ぎ澄ます(WARP)、光とリズムに導かれて身体を動かす(LIGHT)、そして自身の動きをもとに唯一無二のデジタルアート作品を創作する(IMMERSIVE)体験を提供しました。

体験ゾーンは、アシックスの研究によって導きだされた、心身にポジティブな影響を与えると考えられる「15分9秒」の運動を体験できるように構成されました。

本体験には延べ17,000人以上が来場しました。体験後のアンケートでは、参加者の65%がアシックスの「Sound Mind, Sound Body」のメッセージを理解したと回答し、90%以上がアシックスブランドに対する印象が体験前より良くなったと回答しました。

アシックスは、今後も身体を動かすことによって得られる心の高揚を感じてもらえる手助けができるよう、新たな取り組みを推進していきます。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

[*詳しくはホームページ「DISCOVER.by ASICS」をご参照ください→](#)



調査結果



79%

ストレスが軽減したと
実感



83%

運動後に
幸福感が高まったと実感



65%

犬の飼い主の65%が、
愛犬は運動をする最大の
きっかけであると回答



週210分

犬の飼い主の平均運動
時間は週210分

身体を動かす楽しさを再発見できる

ASICS MOVE STREET

東京2025世界陸上競技選手権大会では、トップアスリートの躍動や感動をより多くの方々に体感していただく機会として、2つの体験型イベントを開催しました。これらのイベントを通じて、陸上競技の魅力を発信するとともに、人々が心身ともに健康で充実した生活を送るきっかけを提供することを目指しました。

アスリートの世界を体感する3日間

3日間にわたって開催した体験型イベント「ASICS MOVE STREET」では、3つの没入型ゾーンを通じて、来場者がアスリートの世界を体感しました。

「Stillness（静）」ゾーンでは、トップアスリートの世界観を表現。競技前にアスリートが抱く感情や世界大会の緊張感ある雰囲気を感じていただけるほか、日本代表陸上競技チームの公式ユニフォームの展示や、インタラクティブミラーを活用したスタート姿勢の疑似体験を提供しました。

アシックスは製品をつくる会社であると同時に、人々やアスリートを支えるブランドでもあります。今回、アシックスの従業員が世界陸上選手権を現地で体験することで、一人ひとりがその瞬間を自らの目で見て、肌で感じ、達成感や誇り、そして情熱を直接体感できたのではないかと思います。

そうした体験は、私たち自身がアシックスの創業哲学である「Anima Sana in Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」を深く理解し、体現することにつながります。そして最終的には、その価値を世界中の人々に届け、より多くの人々の心と身体の健やかさに貢献する原動力になると信じています。

ブランドコミュニケーション部
マネジャー
伊丹 有三



「Motion（動）」ゾーンでは、実際の陸上競技の動きを体験。参加者は公認トラックを使用した約10メートルのコースを走り、その様子を撮影した写真やアニメーション動画を受け取りました。

「Release（解）」ゾーンでは、体験を振り返り共有する機会を提供。来場者はアスリートの世界を体験して感じたことや、身体を動かした際の感覚などを自由にボードへ書き込みました。これにより、東京2025世界陸上競技選手権大会への理解がさらに深まり、継続的な運動への意欲向上につながりました。

進化するランニングシューズのテクノロジーを体験する ASICS METASPEED EXPERIENCE

国立競技場で9日間開催した「ASICS METASPEED EXPERIENCE」では、最新のランニングシューズシリーズ「METASPEED」のテクノロジーを紹介しました。来場者は、最先端の技術がどのようにアスリートのパフォーマンスを支えているかを学ぶとともに、それらの技術が自身のランニング体験の向上にもつながることを体感しました。

世界陸上の価値をさらに広く共有するため、日本全国から約1,800人のアシックス従業員を大会に招待しました。



従業員は大会を直接体験することで、アスリートやお客様に寄り添うブランドとしてのアシックスへの理解を深めるとともに、「健全な身体に健全な精神があれかし（Anima Sana In Corpore Sano）」という創業哲学への理解を一層深めました。

こうした体験を通じて、アシックスは、すべての人が運動・スポーツを通じて心身ともに健康な世界の実現を目指しています。



心身の健康の向上のための コミュニティとのエンゲージメント

インクルーシブなスポーツを推進 東京2025デフリンピックを支援

2025年11月、79カ国から2,943人のアスリートが第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025に参加しました。アシックスはトータルサポートメンバーとして、デフリンピック組織委員会にスポーツウェアなどを提供するとともに、デフスポーツの普及・発展に向けた取組みに協力しました。また、大会でボランティア活動に参加する従業員に手話研修を実施しました。

国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催するこの国際総合スポーツ大会には、33万人の観客が来場しました。4年ごとに開催されるろう者アスリートによるデフリンピックは2025年で100周年を迎えました。日本での開催は今回が初めてです。

アシックスがトータルサポートメンバーとなったのは、本大会が聴覚障害者スポーツの振興・発展と人々の心身の健康への貢献を掲げており、アシックスのビジョンと一致するためです。このスポンサーシップを通じて、アシックスは誰もがスポーツの恩恵を享受できるインクルーシブな社会の実現を支援しています。

私たちは、健常者、障がい者、そしてきこえない、きこえにくい方を含むすべての人が、その能力を最大限に発揮できる環境を整え、心と身体の健康をサポートすることに尽力してまいります。

代表取締役会長CEO 廣田 康人



このスポンサーシップは、パラスポーツとデフスポーツの推進に向けた取組みの一環です。アシックスは、日本パラスポーツ協会、日本パラリンピック委員会、日本パラ陸上競技連盟、日本デフ陸上競技協会などの組織の公式トップパートナーです。



[*東京2025デフリンピック 公式サイト→](#)
[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

パラアスリートへの支援と活躍

アシックスは、パラスポーツ団体や大会へのスポンサーシップ、パラアスリートとの契約による支援など、パラスポーツへの取組みを通じて、インクルージョンの推進とパラアスリートの育成を目指しています。2025年は、2名の社員パラアスリートが国際大会で活躍しました。国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA) 女子ブラインドサッカー世界選手権では、若杉遥がキャプテンを務める日本代表チームが銅メダルを獲得しました。また、ニューデリー2025世界パラ陸上競技選手権大会では、新保大和が男子円盤投げ (F37クラス・脳性麻痺) で銀メダルを獲得し、54.50mの日本新記録をマークしました。

以前はひたすら練習していましたが、社会人になってからは技術面にもっと重点を置くようになりました。量より質を優先したことが、今回のメダルにつながったと思います。次は金メダルを目指します。

人事部 新保 大和



2025年、アシックスは従業員を対象に日本パラスポーツ協会の認定資格である「初級パラスポーツ指導員」の養成を行いました。その結果、アシックスグループの従業員27名が認定資格を取得しました。今後も、さまざまなパラスポーツの大会やイベントに貢献できる社内の人材育成を継続していきます。

[*詳しくはホームページ「アスリートとのパートナーシップ」をご参照ください→](#)

[*新保大和の功績について](#)

[一般財団法人 日本パラ陸上競技連盟 \(JPA\) 公式サイト→](#)

[*IBSA女子ブラインドサッカー世界選手権の結果を探索→](#)

グローバルにおける人々の心身の健康への寄付とボランティア活動

アシックスは、人々が心身ともに健やかに暮らせる社会を目指しており、運動を促す製品やサービスの提供にとどまらず地域社会への寄付やボランティア活動にも取り組んでいます。

アシックスは、すべての子どもたちが安全にスポーツを楽しみながら心身ともに健やかに精神を育む権利があると考えています。2025年、遊びの力を活用して世界で最もサポートを必要としている子どもたちを支援する国際非営利団体のRight To Play (RTP)を通じて、ウガンダにおける低所得層の子どもたちの教育を支援するTusobolaプロジェクト、セネガルで少女たちのエンパワメントとジェンダーに基づく暴力・不平等などの解消を目指すRECAF-Jue、ウガンダ、ガーナ、モザンビークで少女の性的・生殖に関する健康の権利の向上に取り組むSHARE、ウガンダで難民の心理社会的ウェルビーイングと精神的レジリエンスの向上を目指すGame Connect 2.0など、さまざまなプロジェクトを支援しました。2021年以降、30万人を超える子ども・若者が、アシックスのRight To Playのプロジェクトに参加しました。

アシックスは、世界各地で地域社会の心身の健康の向上に貢献するためボランティア活動に取り組み、従業員は合計3,965時間のボランティア活動を行いました。アシックスアメリカでは、地元のフードバンクでの活動や公共エリアのゴミ拾いを行いました。従業員は、非営利団体Foster Loveと提携し、カリフォルニア州アーバイン、ミシシッピ州バイハリア、マサチューセッツ州ボストンの各コミュニティで、スケートボードやバースデーボックスの製作・寄贈を通じて、自治体ごとの里親委託制度下の青少年を支援しました。

アシックスのお客様も、製品購入時での寄付など社会福祉を支える上で重要な役割を果たしました。2025年、アシックスアメリカはNational Alliance on Mental Illness (NAMI)、One Tree Planted、およびAinsley Angelを支援しました。Ainsley Angelは、スポーツを含む生活のあらゆる場面でインクルージョンを推進し、障害者コミュニティへの認識を深める活動を行っています。また、カリフォルニア州南部で発生したパリセーズ火災により、アシックスアーバインオフィスの周辺地域も被災したため、カリフォルニア・ファイア・ファンデーションに資金提供を行いました。

2025年のコミュニティへの資金援助額とスポーツ用品などの物品提供の総額：

811,013ドル



Right To Play Africa Project Activities

一般財団法人ASICS Foundation

アシックスが2030年にあるべき姿として策定したVISION2030「誰もが一生、運動・スポーツに関わり、心と体が健康で居続けられる世界」の実現をめざして、2025年4月1日、一般財団法人ASICS Foundationを設立しました。

ASICS Foundationは、社会的または経済的に困難な状況にある青少年、障がい者、女性などに対する運動・スポーツを通じた支援を提供する団体への助成などを行い、当面は主に海外のアシックス事業や生産拠点がある地域・国（ベトナム、インドネシア、インド、カンボジアなど）や日本での取組みを推進します。



左から：石川佳純（理事）、甲田知子（理事長）、一ノ瀬メイ（理事）
一般財団法人ASICS Foundationの設立発表の記者会見

ASICS Foundationの設立は、運動・スポーツを通じて社会に貢献するというアシックスの理念を、さらに広げていく重要な一歩です。スポーツには、人々の心と体を健やかにし、希望や勇気を生み出す力があります。本財団の活動を通じ、社会的・経済的に困難な状況にある方々に、運動・スポーツの機会を提供し、一人でも多くの人が自らの可能性を広げられるよう尽力してまいります。

一般財団法人ASICS Foundation 理事長 甲田 知子

2025年の助成事業では、書類選考と現地視察を経て、国内外の6つの団体が採択されました。これらの団体は、スポーツプログラムの実施やコーチの育成、地域スポーツ大会の開催などを行い、より多くの人々がスポーツに参加できる機会の拡大に取り組んでいます。

ASICS Foundationの活動を通して、より多くの人々が運動やスポーツを体験し楽しめる環境を創出し、心身の健康を支える社会の実現を目指していきます。

[*詳しくはホームページ「一般財団法人ASICS Foundation」をご参照ください→](#)

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

従業員の心身の健康を通じたウェルビーイング

従業員一人ひとりの企業理念の体現を支援

「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」を創業哲学に掲げるアシックスは、従業員一人ひとりの心身の健康を、事業活動の礎と位置づけています。従業員が自らの健康に積極的に関心を持ち、主体的に健康増進に取り組むことで企業理念を体現できると信じています。

近年、企業価値を高める上で人的資本の重要性が大きく高まっています。2025年1月、従業員のウェルビーイング向上に向けた取組みを強化するため、ウェルビーイング推進部を設立しました。アシックスは、従業員の心身の健康を、単なる福利厚生を超え、従業員一人ひとりの健康と会社の持続的成長を同時に実現する戦略的な健康経営を目指しています。

全従業員のヘルスリテラシーを向上させ定着させるという基本方針に基づき、アシックスの健康経営戦略MAPに基づいた、5つの主要な健康増進活動に取り組んでいます。健康管理システムを通じたデータの収集・分析に加え、従業員アンケートを通じてこれらの取組み効果を検証し、その結果を毎年アシックス健康白書で公表しています。進捗状況やその内容については代表取締役社長COOが監督を行っています。また、労働組合や従業員代表とも情報共有や協議の場を設けております。さらに、健康保険組合とは役割を明確にし、推進する体制を整えています。

従業員の健康増進とエンゲージメントの向上を目的として、2024年よりウォーキングイベントや、ASICS SPORTS FESTIVALなどの健康増進



アシックスのウェルビーイング 主な実績



メンタルヘルスセミナーの
満足度

90%以上

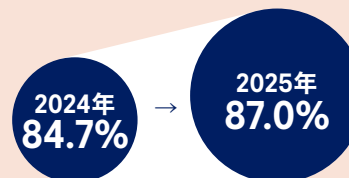


健康管理システムへの
従業員登録率

100%



パフォーマンス発揮率が向上



施策を継続的に実施しています。禁煙プログラムを通じて、社内で成功事例を共有し従業員の禁煙意欲を高めるとともに、職場全体で支え合う文化を醸成しています。

メンタルヘルスの分野では、セミナーの参加率は向上しており、従業員満足度は90%以上を維持しています。アシックスは、従業員支援プログラム(EAP)の利用促進や、療養中および復職時の支援体制の強化にも取り組んでいます。

健康管理システムへの従業員の登録率は100%に達しており、健康診断の受診状況から結果管理に至るまで一元的に把握できる体制を整備しています。また、このシステムを活用して、eラーニングを通じた継続的な健康教育も行っています。

ヘルスリテラシー調査の結果、リテラシーレベルが高い従業員ほどパフォーマンスが高い傾向があることが確認されました。2024年は情報収集力の項目はハイリテラシーの割合が75.4%と高いものの、情報伝達力の項目は43.0%と低く、「健康に関する正しい情報を他者に伝える」という行動が少ないことがわかりました。今後は、この点を重要課題として取り組んでいきます。

運動習慣の定着や、メンタルヘルス支援および快適な職場環境の整備といった包括的なウェルビーイング施策の相乗効果により、パフォーマンス発揮率は2024年の84.7%から2025年には87.0%へと向上しました。

これは、単一の取組みによるものではなく、心身の健康、職場環境、そしてヘルスリテラシーの蓄積が相互に作用した結果と捉えています。今後もヘルスリテラシーを定着させ、向上させることを重要な優先課題と位置づけ、取組みのさらなる発展と拡大に努めてまいります。

[*詳しくは「アシックス健康白書2025」をご参照ください→](#)

[*詳しくはホームページ「アシックスの健康経営」をご参照ください→](#)

サプライチェーンの 人権・透明性

アプローチ

アシックスは、人権の保護と透明性の確保を含め、グローバルな事業活動全体におけるサステナビリティの実現に取り組んでいます。アシックスの方針および国際的な規制に基づき、バリューチェーン全体で働く人々が、安全で倫理的な労働環境のもとで働けるよう努めています。

＊詳しくはホームページ「サプライチェーンの人権・透明性」をご参照ください→

アシックスは、創業哲学である「*Anima Sana In Corpore Sano*（健全な身体に健全な精神があれかし）」の実現には、健全な地球環境が不可欠であると考えています。そのため、原材料の調達から製品づくりに携わる人々に至るまで、バリューチェーン全体でサステナビリティの推進に取り組んでいます。

私たちは、トレーサビリティを通じてサプライチェーンの透明性を高め、データを具体的な行動へとつなげることで、人権の尊重と環境保全のさらなる向上を目指しています。

アシックスにとって、透明性の高いサプライチェーンは単なる目標ではありません。それは、私たちとともに歩むアスリート、サプライチェーンで働く人々、そして地域社会に対する責任です。

サステナビリティ部 副部長
Matthew Xu



2025年の主な活動

- 全従業員を対象に、行動規範に関するオンライントレーニングを実施。
- サプライチェーン・リスク分析の拡充により、デュー・ディリジェンスの精度と粒度を向上。
- 再生ポリエステルや綿などの優先度の高い材料について、上流サプライヤーの可視性の向上と製品・材料レベルのトレーサビリティのパilotプログラムを実施。

2026年以降の計画

- 天然皮革を優先度の高い材料に追加するなど、トレーサビリティプログラムを拡充し、製品・材料の両レベルでトレーサビリティを実装する。
- アシックス基準の共有やサプライヤーとの対話を含む工場評価プログラムを二次生産委託先工場まで拡充する。
- サプライヤー自身が工場管理において主体性を持って継続的に改善が出来るように支援する。
- サプライチェーン・リスクの分析結果をリスクマネジメントおよびビジネス上の意思決定に活用する。

安全で倫理的な労働環境の実現に向けて

アシックスは、グローバルな事業活動全体におけるサステナビリティの実現に取り組んでおり、その一環として、人権の尊重と透明性の確保を推進しています。アシックスの方針および国際的な規制に基づき、バリューチェーン全体で働く人々が、安全で倫理的な労働環境のもとで働けるよう努めています。

こうした取組みの中核となるのがサプライヤーをはじめとしたステークホルダーとの協働です。世界各地の約140社のサプライヤーと緊密に連携し、人権に関するアシックスの基準および関連法令の遵守状況をモニタリングしています。

また、国際労働機関（ILO）をはじめ、Labor Solutions、To Finish the Line（TFL）、SEDEX、TrusTrace、Quizrr、SLCPなど、さまざまな業界団体、国際機関、ステークホルダーと連携し、取組みの方向性を共有しながら活動を推進しています。

「Sound Mind, Sound Body」に基づく人権の尊重

アシックスは、人権を最重要事項のひとつととらえ、ガバナンス体制を構築しています。アシックスの取組みは、国際人権規約と国際労働機関（ILO）の中核的労働基準に依拠して策定した人権方針に基づいています。同方針は株式会社アシックス、その子会社および関連会社のすべてに適用されており、アシックスの倫理的なビジネス慣行の基盤となっています。また、人権委員会を設置し、人権に関する助言・監督を行っています。



この人権委員会は、人権方針を効果的に実践するために設置されたものです。マーケティング（消費者に関する人権を担当）、法務（コンプライアンスを担当）、サステナビリティ（サプライチェーンの労働者の権利を担当）、人事（従業員の権利を担当）といった主要部署の代表者が参加し、アシックスの人権デュー・ディリジェンスの実施状況を監督しています。同委員会は年に2回開催され、方針のレビュー、リスク評価、進捗度の確認を行っています。更新内容および結果は、代表取締役社長COOが委員長を務めるリスクマネジメント委員会に報告されます。同委員会は、リスクおよびその低減に向けた取組みをモニタリングし、必要に応じて取締役会に重要事項を報告します。

アシックスの人権に関する取組みは、本社サステナビリティ部および世界各地のアシックスグループのCSR・サプライチェーンチームによって推進されています。これらのチームは、バリューチェーン全体で倫理的な労働基準を徹底するため、調達およびサプライチェーンマネジメントを担当する部門と緊密に連携しています。

この統合的なガバナンス体制により、グローバルな事業活動全体における人権リスクを適切に識別し、予防・軽減するとともに、迅速に対応できる体制を構築しています。

2025年の人権委員会では、海外販売会社の従業員向けの人権リスク調査、サプライチェーンにおける結社の自由に関する案件への対応、マーケティングにおける不適切な表現への対応などについて議論しました。人権委員会の活動に加えて、ベンダーサミット 2025では、サプライヤーへの人権意識の啓発に取り組みました。さらに、バリューチェーン全体の人権デュー・ディリジェンスにCSR監査報告書を活用しました。

[*詳しくはホームページ「人権方針」をご参照ください→](#)

[*詳しくはホームページ「人権尊重」をご参照ください→](#)

人権デュー・ディリジェンス

アシックスは、透明性の向上と説明責任の遂行に向け、人権方針に基づく包括的な人権デュー・ディリジェンスのプロセスを整備しています。このプロセスは、現代奴隷のリスクを含む、アシックスの事業活動に起因する潜在的および実際の人権への負の影響を特定し、防止、低減、是正するための仕組みです。

人権デュー・ディリジェンスを通じて、ステークホルダーとの積極的なエンゲージメントを図り、解決策の検討を協働し、実効性のある改善につながるパートナーシップを構築しています。2025年には、自社事業およびサプライチェーン全体に人権デュー・ディリジェンスのプ

ロセスを適用し、世界112社のサプライヤーを対象に実施しました。

[*詳しくはホームページ「デュー・ディリジェンス」をご参照ください](#)

→

アシックスの人権デュー・ディリジェンスは以下の過程から構成されます

1. 人権リスクの特定と評価

バリューチェーン内の潜在的な人権リスクを確実に把握する。

2. 人権リスクの予防・緩和

施策を優先順位付けし、バリューチェーン全体で人権リスクを積極的に予防、緩和し、対処する。

3. モニタリング

継続的にモニタリングを実施し、活動の有効性を評価し、必要に応じて適切な対策を実施する。

4. 定期的な開示・コミュニケーション

透明性および説明責任の観点から、活動の進捗状況を定期的に報告する。

人権課題の特定とモニタリング

アシックスは、ビジネスパートナー管理方針（サプライヤー向け行動規範）およびその他のサステナビリティ基準をすべての製造委託契約に盛り込んでいます。サプライヤーは、この行動規範に署名し、責任ある事業活動を行うことを誓約しなければなりません。アシックスでは以下を含むさまざまなサプライヤー評価も実施しています。

- ・新規サプライヤーを対象に、調達開始前の承認プロセスの一環として初回監査を実施
- ・一次生産委託先を対象に、継続的な監査を含む定期的なモニタリングと説明責任を確保するための取組みを実施し、アシックスのCSR基準への継続的な遵守を確認
- ・監査結果を統合報告書およびサステナビリティレポートで公開

サプライチェーン上の機会と課題の特定

アシックスのサプライヤーおよびビジネスパートナーは、関連法律、規制、方針、規約への遵守が求められます。そのため、アシックスは定期的な監査によってサプライヤーとその遵守状況をモニタリングしています。

定期評価により、サプライヤーの課題を認識することで以下が可能となります。

1. 問題の重大性と発生可能性についての評価
2. 適切な行動（将来の注文の見直し、第三者による調査の実施、あるいは正式な警告書の発行などが含まれる可能性あり）
 - a. 軽微な課題: 3カ月以内の改善。サプライヤーは正しい対策を取ることが望まれる。
 - b. トレーニングおよびリソースを含む支援の提供
3. 違反が深刻または繰り返される場合には、取引の終了

2025年、アシックスは監査活動を拡充するとともに、評価の客観性を高めました。監査実施件数は合計106件となり、2024年の87件から21%増加しました。このうち91%（97件）は第三者監査機関が実施し、残る9件はBetter Workプログラムとの連携により実施しました。例年と同様、不適合事項は「安全衛生」「労働時間」「賃金・福利厚生」の3つの分野に集中していました。

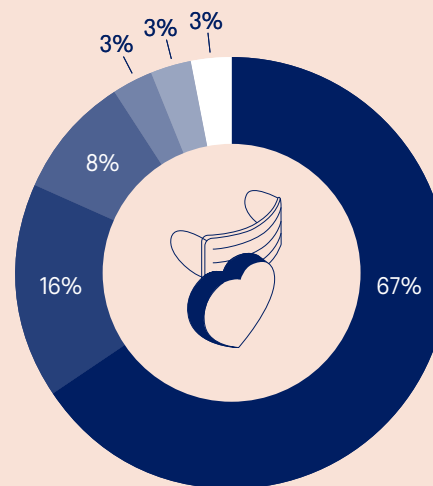
不適合事項への対処に関して、サプライヤーと綿密に連携して是正措置計画の継続的な実行を図ります。アシックスは、適時かつ継続的な是正を重視しており、定期的な状況確認と指導による持続的改善を進めます。

また、監査の結果とともに、サプライヤーの全体的なパフォーマンスの評価を行うことで、工場のCSR管理に関する成熟度と準備状況をより包括的に把握できるようにし、継続的な改善を奨励しています。

2025年、アシックスはサプライチェーン全体を通して可視化を高めるため、一次生産委託先に向けては、CSR管理の実態を把握し潜在的なリスクを特定するためのベースライン調査となる自己評価アンケートを導入しました。また、二次生産委託先に対しては人権デュー・ディリジェンスの取組み戦略を策定しました。

年	内部監査	第三者監査	パートナー監査	合計
2025	0	97	9	106
2024	7	63	17	87
2023	6	55	10	71
2022	7	18	11	36

課題のあった分野※



課題のあった分野

- 安全衛生（職場）
- 労働時間
- 賃金・福利厚生
- 環境
- 結社の自由および苦情申立
- 雇用関係

※本結果は一次生産委託先工場を対象としています。

安全衛生に関する課題

- 火災時の安全確保と緊急時への備え
- 化学物質の管理
- 安全性およびコンプライアンス監視システムの構築
- 機械の安全性
- 個人用防護具の配布

労働時間

- 時間外労働
- 休日および休憩
- 記録管理と文書化

賃金・福利厚生

- 手当と保険
- 賃金などの支払い

2025年、アシックスは、自己評価アンケート(Self-Assessment Questionnaire=SAQ)を開発し、一次委託先工場を対象に実施しました。労働慣行、労働環境、管理体制などに関する情報を収集し、サプライチェーン上のリスクや課題を特定する初期スクリーニングツールとして、工場の取組みの実態や対処すべき潜在的リスクの把握に役立っています。

さらに、サプライチェーン上流の可視性を高めるため、2025年には一次生産委託先の下請け工場の情報を収集して一覧化しました。2026年には、これらの調査結果をもとに重点領域の特定に活用し、リスク低減を強化するとともにサプライヤーとの対話にも組み込んでいきます。

モニタリング活動の一貫性と有効性を高めるため、当社は2025年も引き続きCOP (Compliance Observatory Program)の充実を図りました。COPは、各種モニタリングツールに分散しているサプライヤーのリスク情報、評価結果、およびフォローアップ措置を一元化し、より一貫性のある監督と意思決定を支援するものです。2026年にCOPの全面展開を予定しています。

サプライチェーンのモニタリング強化



2024年初頭、アシックスは、サプライチェーンでの倫理的な事業慣行を管理し改善するための協働プラットフォームを提供するSEDEX (Supplier Ethical Data Exchange)の会員となりました。また、サプライチェーンのリスク評価のための標準的な仕組みとして世界的に認知されているSEDEX Members Ethical Trade Audit (SMETA)の利用ができるようになりました。

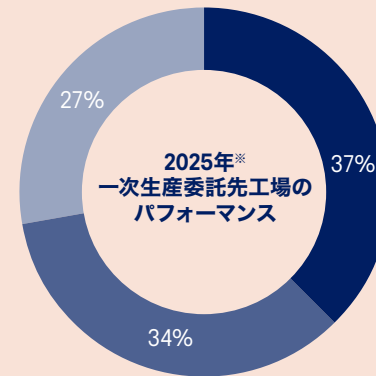
第三者機関監査の実施および業界データの共有により、透明性の向上と連携強化につながります。また、60種以上からなる不遵守のカテゴリーに渡り、カントリーリスクおよび工場リスクの評価の分析結果を得ることもできます。

アシックスは、SEDEX監査指標、国際的な労働基準、さまざまな現地規制との整合性を高めるため、サプライヤーCSR基準を改定しました。新たな評価区分 (Outperforming、Acceptable、Developing、Significant Growth Potential、Not Acceptable)は、サプライチェーン全体の関係者にとって直感的で分かりやすく、理解しやすいものとなるよう設計しています。

この評価方法は、迅速な是正措置によって改善された工場がより高く評価されるようになっています。また、サプライヤーのパフォーマンス評価は、報告年度内に実施された監査の時期や結果とより密接に連動して行われるようになっており、サプライヤーの遵守レベルを正確に反映されるようになっています。

また、アシックスはLCP (Social & Labor Convergence Program)に加盟しています。アパレル・フットウエア産業の透明性の向上を図るとともに、サプライヤーの監査疲れを軽減するために業界全体での取組みを推進するもので、サプライヤーの全体的なパフォーマンスの測定だけではなく、進捗状況の追跡により、当該工場が継続的な改善に取り組んでトップクラスのコンプライアンス基準を達成しているかどうかを示されます。アシックスは、サプライヤーが持続的に改善をし、取組みを推進できる状況を目指しています。

2025年 一次生産委託先工場のパフォーマンス評価



- Outperforming (優秀)
- Acceptable (許容可能)
- Developing (改善が必要)
- Significant Growth Potential (大幅な改善が必要)
- Not Acceptable (許容不可)

Outperforming (優秀)

→ 先進的な実践水準であることを示します。コンプライアンスに関する期待値を上回っており、模範例となり得ます。

Acceptable (許容可能)

→ コンプライアンス基準は満たしていますが、改善の余地があります。

Developing (改善が必要)

→ 発展の初期段階にあるものの、コンプライアンス体制が不十分であることを示しています。綿密な改善計画を策定し、継続的なリスク低減を行う必要があります。

Significant Growth Potential (大幅な改善が必要)

→ コンプライアンスの成熟度が初期段階にあり、改善の余地が大きいことを示しています。期限を決めた改善計画を策定し、定期的に進捗状況を確認して更新していく必要があります。

Not Acceptable (許容不可)

→ コンプライアンスの致命的な不履行、または不履行が繰り返されていることを示しており、即時の改善と再評価が必要で、場合によっては取引の終了につながる可能性があります。

※アシックス基準 (Developing (改善が必要) 以上) を満たす一次生産委託先工場の割合 : 100%

人権課題の防止と緩和

アシックスは、自社の事業活動とサプライチェーン全体での人権リスクの予防と対処に積極的に取り組んでいます。

アシックスは、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」および国際労働機関（ILO）の中核的な労働基準に沿って、自社の方針、社員研修、サプライヤーに対する関係性構築やモニタリングプロセスのそれぞれの中に人権デュー・ディリジェンスを組み込んでいます。これらは、新規サプライヤー候補に対する調達前の事前スクリーニングから、監査を通じた定期的なモニタリング、従業員調査、および苦情処理メカニズムと関連の是正措置の確認と支援を目的にした現地訪問が含まれます。これらの取り組みは、公正かつ安全で倫理的な労働条件を確保し、サプライチェーン全体での継続的な改善と説明責任を果たすことを目的としています。

サプライチェーン・トレーサビリティ・プログラム

多国籍企業であるアシックスは、広範かつ複雑なグローバルサプライチェーンを有しており、このようなサプライチェーンは急速に進展する法的要件に対応する必要があります。具体的な法規制には、米



国のウイグル強制労働防止法（UFLPA）、欧州コーポレート・サステナビリティ・デューデリジェンス指令（CSDDD）、現代奴隷法、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）などがあります。そのため、トレーサビリティはアシックスのコンプライアンス、調達プロセスの統合と透明性の確保、および企業の社会的責任にとって極めて重要なものとなっています。

アシックスの属する業界では、情報の可視化やトレーサビリティが課題になっていることに加えて、原材料から最終製品に至るまでの詳細な情報がコンプライアンスとしてより一層求められる状況があります。そのため、アシックスの取り組みは製品ライフサイクルに対する責任やコンプライアンスだけでなく、企業としての競争力にも影響を与えることとなります。

こうした状況を受け、アシックスは、以下を主な目的にサプライチェーン・トレーサビリティ・プログラムを推進しています。

- ・ 拡大する国際的な法規制の要件を遵守する
- ・ サプライチェーンのあらゆる部分で可視化を高め、透明性と信頼性を向上させる
- ・ 倫理的な購買慣行と責任ある調達を推進する
- ・ 正確でリアルタイムなデータを社内および社外のステークホルダーに提供し意思決定を支援する
- ・ データに基づく意思決定とサプライヤーの説明責任の向上により、アシックスのサステナビリティ目標の活動全体での達成を目指す

このプログラムを通じて、取引サプライヤーのマッピングや、責任ある調達、製品コンプライアンスを確保する仕組みを構築しています。また、部門横断型の推進チームを組成し、業務プロセスやワークフロー、手法およびツールの標準化に取り組んでいます。

このプログラムの中心となっているのは、サプライチェーン全体の可視化と透明性を向上するためにパートナーである外部のデジタルプラットフォームTrusTraceとの連携です。TrusTraceを通じてサプライチェーンのデータをデジタル化することにより、監査業務の大幅な効率の向上と関連業務の合理化が実現しました。さらに意思決定および改善の可能性がある分野の検討が迅速にできるようになりました。また、サプライヤーも監査結果に基づく是正措置を迅速に実施できるようになり、アシックスはその状況をモニタリングすることで、継続的な改善が可能になります。このようなデジタル技術を取り入れた業務の推進は、サプライチェーンの活動をより透明性高く把握できるため、将来のリスクの軽減にも役立ちます。

2025年、ASICSのトレーサビリティプログラムは、主要な調達地域における一次生産委託先および指定された二次生産委託先を対象とし、主要な生産量にわたる情報の可視化を実現しました。サステナビ

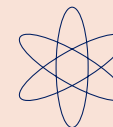
サプライチェーン・トレーサビリティ・プログラムでのアシックスの取組み



サプライチェーン
全体を可視化する



倫理的な基準を
維持する



先端テクノロジーを
活用する



パートナーと
協働する

リティ部門、事業部門、IT部門からなる横断チームにより、製品レベルおよび材料レベルのトレーサビリティを備えたサプライチェーン・マッピングのパイロット運用を終えました。綿や再生ポリエステルに加えて、2026年には天然皮革についてもトレーサビリティの対象とする予定です。

この取り組みは、サステナビリティ、責任ある調達、およびサプライチェーンマネジメントに向けた重要な一歩となっています。経営層による全面的な支援のもと、サプライチェーン・トレーサビリティプログラムのパイロット運用は完了を迎えつつあります。

意識啓発と能力育成

アシックスは、人権リスクを特定し適切に対応するための知識やツールを従業員とサプライヤーに積極的に提供することで、安全で倫理的な職場づくりに取り組んでいます。研修、方針の徹底、職場改善に向けた取組みを通じて、責任ある行動と継続的な改善を重視する企業文化の醸成を図っています。

すべての従業員は入社時研修において、グローバル行動規範、ハラスメント防止方針、職場におけるいじめ防止などに関する研修を受講しています。また、毎年全社研修を実施しているほか、マネジャーおよびリーダーには、内部通報者保護や報復防止に関する追加研修の受講を義務付けています。

さらに、継続的な教育、オンラインおよび対面でのイベント、ILO Better Workをはじめとする業界イニシアティブとの連携を通じて、サプライヤーとのエンゲージメントを継続的に強化しています。これらの取組みにより、サプライヤーとの信頼関係を深めるとともに、説明責任を強化し、バリューチェーン全体において倫理的かつ人権を尊重した労働慣行の促進を目指しています。

責任ある購買慣行

アシックスは、サプライチェーン内での強制労働のリスクを軽減するために、責任ある購買慣行の促進に努めています。その一例として、計画と予測を向上させ、サプライチェーンで働く人々が過度な残業をするリスクの低減を図っています。アシックスは、以下の段階のいずれにおいても、公正な労働慣行の実践を推奨しています。

1. 責任ある雇用
2. 計画と予測
3. 設計と開発
4. コスト見積もりとコスト交渉
5. 調達と発注
6. 支払いと支払期間

[※責任ある購買に関する詳細はこちらをご参照ください→](#)

[※事前調達承認プロセスに関する情報は、「サステナビリティレポート2023」P23をご参照ください→](#)

責任ある雇用の実現

アシックスは、米国アパレル・フットウエア協会 (AAFA) と連携し、台湾を含むさまざまな国および地域で責任ある雇用のプロセスが行われるように努めています。取組みの一環として、現場訪問とそれによる評価を通じてサプライヤーへの働きかけをしたほか、AAFAと査察と改善に取り組んでいます。また、サプライヤーに対し、コンプライアンスへの取組み、および違反した場合の潜在的な影響について説明をしています。人材派遣会社に対して、アシックスは直接の接触はありませんが、サプライヤーはこれら派遣会社の協力を得て、ノーフィーポリシー（採用手数料の労働者負担を禁止）を導入しています。

アシックス苦情処理メカニズム

アシックスは、潜在的な問題を特定し緩和するため、従業員およびサプライチェーンの労働者の声を聞くことで、人権のリスクを軽減し労働条件を改善できると考えています。苦情処理メカニズムを通じて、自社およびサプライチェーンでの強制労働、児童労働、ハラスメント、賃金または労働時間などについての課題や懸念を確認することができます。

アシックスでは、従業員およびサプライチェーンの労働者が直接意見を表明し、対話できる苦情処理制度を設けています。この制度は、アシックス内部通報方針に基づき運用されており、同方針では報復からの保護措置も定められています。

[※詳しくはホームページ「グローバル内部通報方針」をご参照ください→](#)

サプライチェーンの従業員を対象とした従業員エンゲージメントプログラムの一環として、当社はLabor Solutionsの従業員エンゲージメントプラットフォームであるWOVOの導入を開始しました。eラーニング、従業員調査および苦情処理メカニズムを備えるこのプラットフォームは、工場の経営陣と従業員のコミュニケーションの改善によって、人権リスクの低減と工場のパフォーマンス向上を目指します。

これまでに、WOVOはカンボジア、ベトナム、台湾の6つの戦略的な工場に導入されており、現在は7つの工場で継続的に活用されています。また、追加導入する工場についても現在検討を進めています。アシックスはこのプログラムを直接運営・管理するのではなく、サプライヤーが主体的に運営することを促すことで、工場内の管理システムに組み込めるよう支援しています。

画一的な解決策を押し付けるのではなく、サプライヤーによる主体的な取組みと学びを重視しているため、参加は任意としています。また、必要に応じて、WOVOを既存の人事管理システムや苦情処理システ



サプライヤーとの協働を通じた人権尊重と透明性の推進

私たちは、持続可能なビジネス慣行は、パートナーシップと責任の共有を通じて築かれるものだと考えています。2025年には、ベトナムで開催したベンダーサミットに一次生産委託先工場の管理者及びCSR担当者180名が参加しました（アシックスのベトナムオフィスで55名が現地参加、125名がオンライン参加）。

本ベンダーサミットは、社内の各部門間の連携を強化し、サプライヤーの労働環境・人権・環境対応とその継続的な改善を支援する取組みを整合させることを目的としています。サプライヤーには、CSRリスクや規制動向に関する情報の提供や工場の労働環境や人権に関する研修機会を設けるとともに、ツールを提供し優良事例を紹介しました。

アシックスは、サプライヤーの能力に投資し継続的な学習機会を創出することで、製造基盤の倫理面を強化するとともに、グローバルなサプライチェーン全体における労働者の権利保護への取組みを推進しています。



ムに組み込むことも推奨しています。サプライヤーからのフィードバックはさまざま、WOVOを継続して活用することに価値を見いだしている企業もあれば、WOVOで得られた知見を既存の苦情処理の仕組みに取り入れることを選択する企業もあります。

2025年、さまざまなルートを通じて把握した、事業に関連する苦情92件およびサプライチェーンに関連する苦情13件に対応しました。サプライチェーンで報告された事例は、主に結社の自由、職場における行動（ハラスメントを含む）、および労働・雇用慣行に関するものでした。事例の大部分は報告年度中に解決され、残りの事案については引き続きモニタリングの対象となっています。

2025年に確認されたコンプライアンス違反事案を受け、アシックスはサプライチェーン管理体制を見直し、一部の下請け工場および二次生産委託先工場を管理対象に加えるなど、サプライチェーン全体の監督範囲をさらに拡大しました。この取り組みは、一次生産委託先に対し、自社事業における人権リスクへの認識を一層高めるだけでなく、下請け業者における人権リスクについても理解し、モニタリングを行い、その管理責任を果たすとともに、リスクが確認された場合にはアシックスと速やかに連携して対応することを目的としています。さらに、アシックスはフットウェアの下請け業者リストを更新し、2026年1月にその作業を完了しました。今後は、優先的に対応すべき下請け工場および二次生産委託先工場を特定し、これらのサプライヤーに対してアシックスの方針と期待事項を共有するとともに、一次生産委託先と同じ工場管理・モニタリングシステムに組み込んでいきます。

協働を通じた人権尊重と透明性の推進

アシックスは広範なサプライチェーンの中で活動しています。人権を尊重し、透明性を確保するためには、アシックスのサプライヤーおよび業界内の他企業との連携が必須です。

アシックスは、事業者団体、非政府組織およびさまざまなステークホルダーとのエンゲージメントにより、自社の活動が業界のベストプラクティスに沿ったものとなるよう努めています。

[*詳しくはホームページ「アシックスグループ現代奴隷と透明性に関する声明」\(英語\)をご参照ください→](#)

Social & Labor Convergence Program (SLCP)

アシックスは、SLCP (Social & Labor Convergence Program) に加盟しています。このプログラムは、世界のサプライチェーンの労働条件についての正確なデータを得るためのツールとなっています。

American Apparel and Footwear Association (AAFA)

アシックスはAAFA (American Apparel and Footwear Association) との共同イニシアティブに参画しており、メンバーおよび同業者との協力を通じて業界慣行を発展させることを目指しています。

Cascale (旧称 Sustainable Apparel Coalition)

アシックスは、CascaleのWorldly Facility Environmental Module (Higg FEM) スコアを、一次生産委託先および二次生産委託先サプライヤーの環境パフォーマンス管理を把握するために採用しています。

JP-MIRAI

アシックスは、外国人労働者を含む人々の、日本で安全かつ快適な生活を支援するグループであるJP-MIRAIの会員です。

Better Cotton (BC)

2019年より、アシックスは、綿花生産地の環境、農家、経済の計量可能かつ継続的な改善を推進する団体であるBCの会員です。

ILO Better Work

アシックスは、2014年からBetter Workのパートナーです。ベトナム、インドネシア、カンボジアといった生産国で密接に連携しています。また、アシックスは同プログラムと共同でサプライヤー対象のCSRセミナーを開催しており、責任ある購買慣行といった特定の問題でも協働しています。



ダイバーシティ、 エクイティ&インクルージョン

アプローチ

「One Team, Stronger Together」というビジョンのもと、多様な人財が公平に活躍し、より大きなイノベーションと企業価値を生み出すことで、エンゲージメントの高い組織の実現を目指しています。

[*詳しくはホームページ「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」をご参照ください→](#)

インクルーシブな文化の醸成

身体的および精神的に健康的な生活を送ることを支援する製品やサービスを提供するために、アシックスは多様性、公平性、包括性（DE&I）の推進に取り組んでいます。私たちは、人種、民族、性別、年齢、宗教、障がい、性的指向、性自認に関わらず、すべての従業員が尊重され、平等な機会を得られるインクルーシブな職場環境の実現を目指しています。

アシックスは、すべての従業員が活躍し、自分らしく働ける職場づくりを目指しています。DE&I戦略に基づき、私たちは以下の3つの重点分野に注力しています。女性リーダーの育成・登用、従業員のエンゲージメント向上、そして特に日本における障がいのある人々の雇用・活躍を促進することです。2025年を通じて、これらの戦略的優先事項に沿った施策に継続して取り組みました。

ジェンダー格差の解消

あらゆるレベルで女性の登用を進め、バランスのとれた公平な組織作りを目指しています。2026年までにグローバルで女性管理職比率40%の達成を目指し、各地域においてそれぞれの状況に応じた行動計画を実施しています。

アシックスのDE&I・エンゲージメント推進チームは、進捗状況をモニタリングし、四半期開催のグローバルDE&Iステアリングコミティで報告を行い、継続的な改善に向けたフィードバックを行っています。

2025年には、各地域の課題やベストプラクティスを共有するため地域間の連携を強化し、全地域の人事責任者が参加する対面形式のグローバルワークショップを開催しました。

こうした取り組みの成果として、2025年のグローバルにおける女性管理職比率は41%となり、目標の40%を上回りました。また、主要8地域のうち6地域が目標を達成しています。アシックス本社とアシックスヨーロッパでは、目標達成に向けて、キャリア開発や採用チャネルの多様化など、多角的な取り組みを進めています。

2025年の主な活動

- 従業員の成長とキャリア形成を支援する「Growth in Motion」を開始。
- 国際女性デー（International Women's Day）や、プライド月間など（Pride Month）ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DE&I）に関連するイベントを開催。
- デフリンピックへのスポンサーシップを通じて、障がいのある人への支援を拡充。
- 次世代リーダーの育成に向けた海外研修プログラムを創設。

2026年以降の計画

- 障がいのある人々に寄り添った、より包括的な360度支援体制を構築する。
- Growth in Motionの理念とプログラムをさらに浸透させ、全社的な成長文化を強化する。
- 働く親の多様なニーズに柔軟に寄り添った、より働きやすい環境を整備する。



2025年女性管理職比率

地域	女性管理職比率 (%)
グローバル	41.0
アシックス本社	20.4
アシックスジャパン	25.0
アシックスアメリカ	50.5
アシックスヨーロッパ	42.6

ダイバーシティを尊重する取り組み

企業や社会における女性の貢献を称えるため、アシックスは第30回国際女性ビジネス会議 (International Conference for Women in Business) のシルバーパートナーとして協賛しました。同会議には25カ国から約1,000名の参加者が集まりました。常務執行役員である甲田知子は、「女性のキャリアと心身の健康について」をテーマにしたパネルディスカッションに登壇し、女性が健やかなキャリアを築くうえで、心身の健康が重要であることについて語りました。

また、毎年6月のプライド月間 (Pride Month) において、インクルージョンと帰属意識を育むさまざまな取組みを積極的に実施しています。グローバルでは、従業員が毎年恒例のPride Run/Walkに参加しています。また各地域では、それぞれの地域特性に応じた取組みを実施しています。アシックスは、2020年東京オリンピック大会を契機にスタートしたPride House Tokyoとのパートナーシップを継続しています。これらの取組みが評価され、アシックスは2025年に7年連続で「PRIDE指標」においてゴールド認定を獲得しました。

スポンサーを務めた2025年東京デフリンピックでは、聴覚障がいのある社員と障がいのない社員が協力し、大会で使用される手話応援の練習を行いました。また、社員たちは、障がいのある人々のインクルージョンと、誰もが働きやすい職場環境づくりに対するアシックスの取組みを紹介するセレモニーに参加し、聴覚障がいのある社員が日本の手話でスピーチを行いました。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) のイベントを企画するにあたり、アシックスは、各地域の文化的・社会的背景を慎重に考慮し、地域の人事責任者と緊密に連携しながら、それぞれの地域に適した効果的な取組みを進めています。



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) を推進する採用

インクルーシブな職場環境を目指し、アシックスは多様性と公平性を重んじる公平な採用プロセスの実施と人財育成の取組みに努めています。2025年、障がいのある人々の雇用と、雇用の定着を支援する取組みを強化しました。

障がいのある部下を持つマネジャーは、基礎知識とインクルーシブなマネジメントスキルの向上を目的とした研修を受講しました。計19名のマネジャーが参加し (参加率79%)、障がいのある従業員の活躍を支えるマネジメント手法を学びました。全19名のマネジャーを対象に実施したフォローアップ研修では、アンコンシャス・バイアスや合理的配慮について学びました。

アシックスのグローバルDE&Iステアリングコミッティは、性別、地域、職務分野において多様なリーダー層で構成されており、戦略的目標に対する進捗状況をモニタリングするとともに、各地域の課題に柔軟に対応できる体制を整えています。アシックスは、障がい者のインクルージョンに関する法的枠組みや定義が国・地域によって異なることを認識しています。多くの国や地域では、障がいに関する情報の開示は従業員本人の意思に委ねられています。アシックスは、各地域のチームと緊密に連携し、現地の規制を遵守するとともに、インクルーシブな取組みや心理的安全性の促進に努めています。

こうした取組みの結果、アシックス本社における2025年の障がい者雇用率は、2024年の3.1%から3.6%へと向上しました。日本政府が定める法定雇用率2.5%や国内企業の平均を上回っていますがアシックスの2026年目標である4.0%には達していません。今後も取組みの拡充を進め、目標達成に向けた歩みを加速していきます。

未来のリーダーの育成

インクルーシブな企業文化を根づかせ、事業の持続的な成長につなげるため、アシックスは次世代リーダー育成に関するさまざまな取組みを通じて、将来のリーダー育成に投資しています。

ASICS Academy

ASICS Academyは、グローバルに事業を牽引できる人材の育成を目的として、2016年に開始されました。本プログラムでは、次世代リーダーとして選抜された従業員を対象に、マネジメントに関する知識やDXを活用した戦略的思考力を養うための研修を提供しています。

参加者は、習得した知識やスキルを業務で実践するとともに、キャリアパスの実現を支援するキャリア面談を通じて成長を図っています。

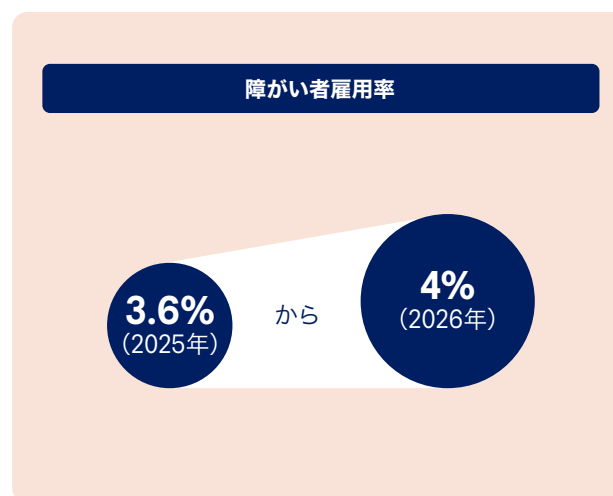
海外研修プログラム

本プログラムは、新卒入社3年目から5年目の従業員に海外での業務経験の機会を提供することを目的として、2026年に導入されました。2025年には、受入国との調整、派遣先の選定、参加者の選考および渡航前研修、運営体制の整備などの準備を進めました。

海外での実務経験を通じて、適応力や課題解決力を強化するとともに、グローバルな視点とマネジメントマインドを育むことで、将来のリーダー育成を目指しています。

基礎マネジメント研修

本研修は、事業戦略、会計、データ活用・分析に関する基礎的な理解を深めるとともに、従業員の学習意欲や成長意欲を高めることを目的としています。



Growth in Motion

グローバルエンゲージメントサーベイによるフィードバックから、従業員のキャリア形成支援には、全社統一のアプローチが必要であることが分かりました。これを受け、アシックスは自己啓発プログラム「Growth in Motion」を導入しました。このプログラムでは、従業員の自己内省を促すとともに、リーダーとチームメンバーとの有意義なキャリア対話の継続を後押ししています。

本プログラムは、各地域の人事チームと共同で開発され、1on1ミーティングに関するグローバルガイドライン、研修モジュール、従業員自身のキャリア形成の経験を紹介する動画など、9言語対応の実践的な学習コンテンツを提供しています。

「Growth in Motion」を、アシックスグループ全体におけるエンゲージメントの強化、そして長期的なキャリア形成を支援するための基盤プログラムと位置付けています。

従業員の意見を知り、エンゲージメントを最適化する

従業員エンゲージメントは、インクルーシブな職場環境を実現するための重要な要素であり、アシックスは毎年実施するグローバルエンゲージメントサーベイを通じてその状況を測定しています。2025年10月に実施された直近のサーベイでは、グローバル従業員エンゲージメントスコアが過去最高の75を記録しました。これは2024年の73を上回り、目標値である70も達成する結果となりました。

回答率もグローバルで94%に達し、従業員が率直に意見を共有でき

アシックスでは、従業員が自らキャリアを切り拓き、成長に必要なスキルを身にけられるよう支援し、個人と組織がともに成長し発展していく文化を築いています。

ウェルビーイング推進部
エイミー・ミラー



る環境への信頼の高さを示しています。特に、重点分野である成長とキャリア開発において継続的な改善が見られました。

サーベイ結果を受け、各地域と事業部門がアクションプランを策定し、実行しています。グローバルでは、サーベイで寄せられたフィードバックを踏まえ、「ASICS Growth in Motion」プログラムを開始しました。

アシックスは、Global Integrated Enterprise(GIE)に向け変革を進めるなか、グローバルな優先事項を定める一方、各地域の主体性をいかに発揮していくかを依然として課題としています。従業員エンゲージメントの向上は、チーム内での日々のやり取りによって醸成されるものであり、管理職が主体的に責任を持って取り組むことが重要です。

今後も、地域の人事部門および事業部門のリーダーと緊密に連携し、PDCAサイクルを着実に回しながら、効果的なアクションプランを継続的に策定・実行してまいります。

差別防止に向けた取組み

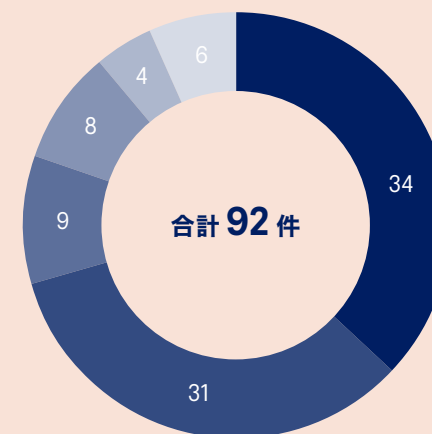
健全な職場環境には、いかなる差別もハラスメントも容認されません。アシックスは、ハラスメント・差別の防止に関する取組みを、アシックスグローバル行動規範およびアシックス人権方針に明記しています。従業員が安心して相談・通報できるよう、グローバル内部通報制度を整備しています。2025年、このシステムを通じて92件の事案が通報され、そのうち34件はハラスメントに関するもので、4件は人権および差別に関するものでした。すべての事案について、コンプライアンス委員会が社内手続きに従い調査しました。違反または不適切な行為が確認された場合は、是正措置および再発防止措置を講じています。

通報件数が2024年の70件から92件に増加したのは、報告制度の認知度を高める社内広報キャンペーンの効果が反映されたものと考えられています。各地域で配布するポスターを刷新したほか、コンプライアンス調査や研修も実施しました。これらの活動により、従業員のコンプライアンス意識の向上に繋がりました。制度の周知活動は効果を上げていますが、対象外となる通報も含まれているため、今後は適切な制度利用の促進に注力していきます。

報告件数※

2025	92
2024	70
2023	69
2022	49

※グローバル内部通報システムとコンプライアンス委員会に通報された報告件数



報告の内訳 (2025年)

- ハラスメント
- 規律などの違反
- 利益相反
- 懸念事項・問い合わせ
- 人権・差別
- その他

WELCOME TO THE PLANET CHAPTER

A Sound Mind in a Sound Body Needs a Sound Earth

PLANET - 環境への配慮

チャプターハイライト

気候変動への対応 **36**

循環型ビジネス **46**

生物多様性と水の管理 **52**

製品とサービスの品質 **55**

PLANET活動の枠組み

1949年の創業より、アシックスの使命は人々の心と身体を健康にすることです。そのためには、人々が快適に運動やスポーツができる地球環境が不可欠です。

健やかな地球環境の実現に向けて

地球環境への負荷を最小限に抑え、人々の心身の健康を実現するための健やかな地球環境を守ることがアシックスの責任であると考えています。

製品の開発、製造、流通、サービスの提供において、アシックスは、水から原材料に至るまで、さまざまな資源を使用しています。健全な地球環境の実現に向けた取組みの中心として、温室効果ガスの排出量削減、循環型ビジネスの推進、水の使用量と廃棄物の最少化、およびイノベティブな製品の開発に取り組んでいます。

温室効果ガス排出量削減目標

Why

健やかな心身を実現するためには、健やかな地球環境が必要である

What

(気候変動
への対応)

2050年目標 温室効果ガスの排出を実質ゼロにする

2030年 CO₂排出量削減目標 (基準年: 2015年)

スコープ 1&2

63%

事業所における
CO₂排出量を削減

実績 **44.8%**

スコープ3

63%

サプライチェーンでの
CO₂排出量を削減^{*1}

実績 **5.1%**

How

(循環型
ビジネス
モデル)

Action 1

100%

2030年までに事業所での
使用電力を再生可能
エネルギーに切り替え

実績 **38.2%**

Action 2

50%

2030年までに一次生産委託先
工場^{*2}でのエネルギー使用量を削減
(基準年: 2015年)

実績 **11.6%増^{*3}**

Action 3

85%

2030年までに一次生産委託先
工場^{*2}での使用電力を
再生可能エネルギーに切り替え

実績 **24.1%**

Action 4

100%

2030年までにシューズおよび
ウェアのポリエステル材を
再生ポリエステル材に切り替え

実績 **50%以上**

Action 5

3地域

製品や材料を再利用または
リサイクルするため
製品回収プログラムを実施

実績 **4地域**

Action 6 パートナースhipを通じてイノベーションを創造

* アシックスは、サプライチェーンにおけるバイオ燃料の使用状況を確認し、サプライヤーと連携してデータ収集を開始しています。今後、バイオ燃料の使用量把握に努め、バイオ燃料に関するGHGプロトコルの変更に対応した算定・開示の準備を進めていきます。

※1対象範囲は「購入した製品・サービス」と「販売した製品の廃棄」

※2実績値はフットウェアのみを対象としています。

※3 2015年の目標設定時と比較し、事業成長に伴う生産量の増加に加え、算定対象の拡大、データの取得方法や集計方法の変更などエネルギー使用量算定の前提条件が大きく変化しています。事業実態に即した目標の再設定および算定方法の更新を検討しています。

気候変動への対応

アプローチ

アシックスは、バリューチェーン全体でCO₂排出量を削減し、運動・スポーツができる地球環境を守ります。

[*詳しくはホームページ「気候変動への対応」をご参照ください→](#)

2025年の取組み

取組みの推進には、ステークホルダーとの協働が不可欠です。「中期経営計画2026」で掲げた目標の達成に向けて、世界各地で地球環境のための取組みを進めています。アシックスジャパンでは、店舗における再生可能電力の調達を開始しました。山陰アシックス工業では、2025年4月から再生可能電力へ切り替えました。また、アシックスオセアニアでは、2025年の再生可能電力調達率を98.6%まで引き上げました。

2025年にはスコープ1・2の温室効果ガス排出量を44.8%（2015年比）削減しました。一方で、アシックス製品への世界的な需要の拡大に伴い、スコープ3排出量の削減率は低下しており、引き続き重要な課題であると認識しています。アシックスは、持続的な事業成長を支えながら、バリューチェーン全体における構造的な排出量削減を推進することで、この課題への対応を進めています。

[*スコープ3の実績は本レポートのP39をご参照ください→](#)



2025年の主な活動

- グローバル事業全体で再生可能エネルギーへの移行を推進。
- CO₂排出量に関するデータをより正確かつ効率的に収集・管理するためのデジタルシステムの導入を開始。
- パートナーサミットを通してサプライヤーとの連携を強化。

2026年以降の計画

- ネットゼロ目標に向けて2030年ロードマップの策定に引き続き取り組む。
- 排出量の多い拠点から優先的に再生可能エネルギーの使用率を高める。
- サプライヤーから回収するデータ管理プロセスを確立する。
- 製品のカーボンフットプリント表示を継続する。

重要な取組みのひとつが、グリーン調達方針に基づき、2030年までに再生可能エネルギー100%調達を目指す取組みの一環として、2023年から加速して進めている、フットウェアの戦略的一次生産委託先工場への再生可能電力の導入です。その結果、再生可能電力調達率は2022年の0%から2025年には24.1%まで向上しました。また、2025年にはパートナーサミットを開催し、CO₂排出量削減に向けたサプライヤーとの連携および協働を強化しました。

二次生産委託先工場に対しては、材料調達方針を通じて排出量削減を推進しており、リサイクル材をはじめとする環境負荷の低い材料の使用を奨励しています。また、温室効果ガス排出量データの精度向上と管理効率化を目的として、一次データに基づく算定手法の導入についても検討を開始しました。これらの取組みにより、バリューチェーン上流における気候変動対策を拡大するとともに、業界動向や協働の機会を踏まえながら、アクションプランの継続的な改善を進めています。

気候目標を達成するためのガバナンス

気候変動は重要な経営課題のひとつとして、最高ガバナンス機関である取締役会による監督の下で対応を推進しています。また、気候変動を含むアシックスのサステナビリティ施策や取組みの達成状況は、社内取締役および執行役員の業績報酬を構成する要素のひとつです。

この仕組みによって、気候変動関連目標に対する経営陣の説明責任とコミットメントを強化するとともに、経営陣による積極的な目標達成に向けた取組みを推進しています。執行役員は、ステークホルダーとのエンゲージメントも含め、各部門への関連施策の落とし込みと実行を推進しています。

[*詳しくは本レポートのP10ご参照ください→](#)

CO₂排出量の削減



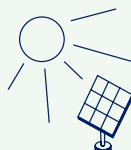
44.8%

スコープ1&2
排出量の削減率
(2015年との比較)



5.1%

スコープ3
排出量の削減率
(2015年との比較)



100%

フットウェアの
戦略的一次生産
委託工場での
再生可能エネルギー
調達プランの
ある割合

ネットゼロ達成を目標に設定

アシックスは、2050年までのネットゼロ達成を目指して気候変動への取り組みを進めています。これにより、産業革命以前と比べた世界の平均気温上昇を1.5°Cに抑えるための国際的な取組みに貢献します。

アシックスは、自社事業およびサプライチェーン全体を対象に、2015年を基準年として2030年までにCO₂排出量を63%削減する目標を掲げています。この2030年目標は、Science Based Targets initiative (SBTi) の認定を受けています。加えて、2050年までにネットゼロの達成を目指すことを表明しています。

スポーツや運動、
そして人々のパフォーマンスを
支える環境を守るために、
気候変動への対応は
不可欠です。

執行役員
サステナビリティ部 部長
和泉 絵里子



気候変動への対応

気候変動対策におけるアシックスの最大の課題のひとつは、スコープ3の削減です。事業成長と気候変動対策を両立させることは大きな課題であり、生産量の増加がスコープ3の増加に直結することが、その要因となっています。

グローバルなサプライチェーンを通じて事業を展開するアシックスでは、原材料調達および製造工程などの上流段階で特に多くの温室効果ガスを排出しており、これらがバリューチェーンにおける排出量の80%以上を占めています。

効果的な気候変動対策を講じるためには、これらの排出量を可視化することが不可欠です。可視化することで、温室効果ガス排出量の削減に重点的に取り組むべき領域を明確にすることができます。2025年に

は、製品カーボンフットプリント、スコープ1・2・3の排出量を可視化・算定するデジタルシステムの導入を検討しました。

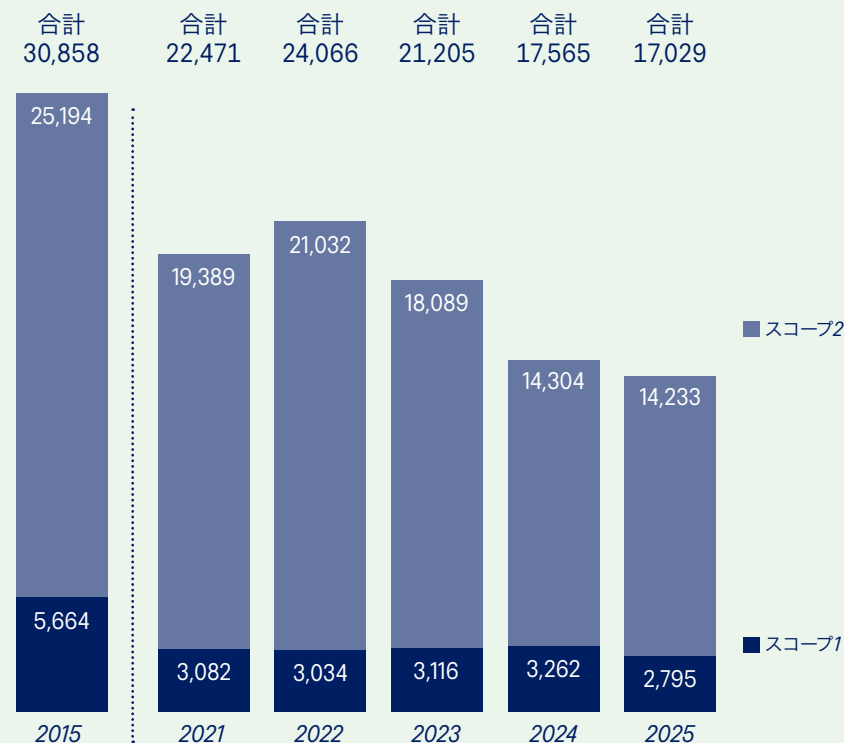
正確な一次データの収集は、最も効果的な対策に注力するための鍵となります。そのため、2025年分のデータ収集より、フットウェアの一次生産委託先工場におけるデータの検証にWorldlyプラットフォームの活用を開始しました。

2026年には、温室効果ガス排出量をより詳細なレベルでデジタルで可視化・管理するシステムを導入し、より正確でタイムリーなデータ収集の実現を目指します。



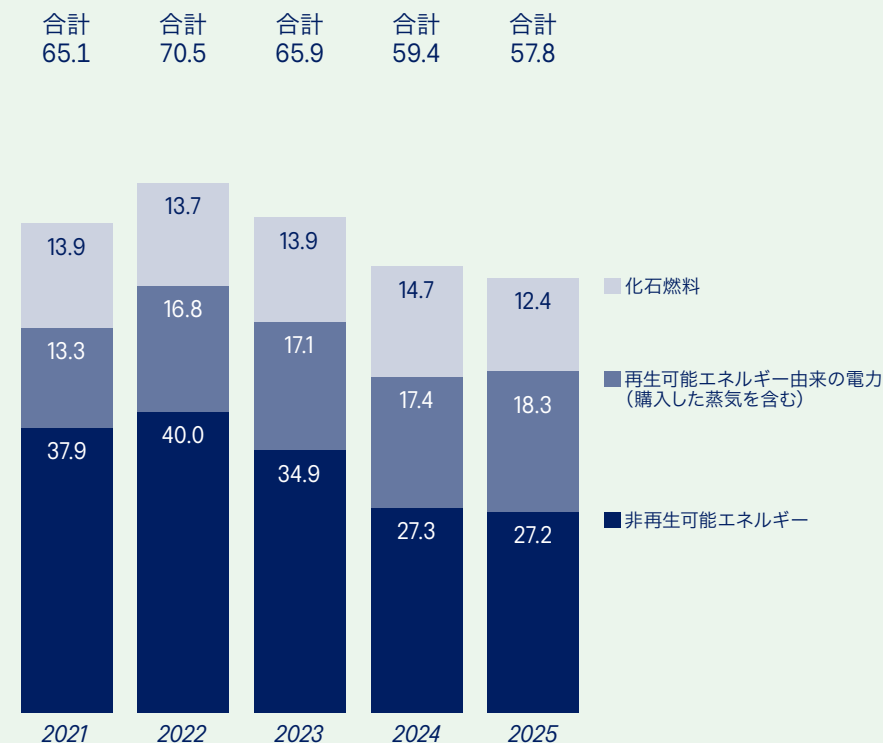
数字で見る気候変動への対応

オフィス、ショールーム、物流センター、生産子会社、直営店を含むアシックスグループのデータです。社有車・リース車からの排出量も含まれます。

事業所からのCO₂排出量(単位:トン)(スコープ1 & 2)

スコープ1の数値は、2006 IPCCガイドライン（商業施設）に基づく係数を使用して算出。ブラジルの社有車/リース車からの影響は、2015年のDEFRAデータに基づく係数を使用して算出。スコープ2の数値は、IEAの2016年燃料燃焼によるCO₂排出に基づく係数を使用して算出。サイトのエネルギー消費量が入手できない場合、次の式により算出。(1平方メートルあたりの推定エネルギー消費量) × (サイト面積) × (年間営業日数) × (CO₂排出係数)。

種類別エネルギー使用量(GWh)



サイトのエネルギー消費量が入手できない場合、次の式により算出：
 $(\text{各種サイトの推定エネルギー消費量}) \times (\text{サイト面積}) \times (\text{年間営業日数}) \times (\text{各単位からGWhへの換算係数})$ 。

2025年のスコープ3 CO₂排出量

スコープ3カテゴリー	CO ₂ 排出量(単位:トン)	%	スコープ
1. 購入した製品・サービス	734,872	82.4	フットウェア製造(Tier 1) とアシックスグループのフットウェア材料、アパレル・エキップメント、マーケティングと販売(計算方法※ ¹)
2. 資本財	33,016	3.7	アシックスグループ
3. スコープ1・2に含まれない燃料およびエネルギー活動	676	0.1	アシックスグループ
4. 輸送、配送(上流)	66,536	7.5	カテゴリー4はフットウェア事業の船舶輸送と航空輸送のデータ、トラック/鉄道輸送による港から配送センターへの輸送(欧州・米州・日本)および配送センターから顧客への輸送(日本)のデータです。
5. 事業から出る廃棄物	85	0.0	アシックスグループ
6. 出張	5,563	0.6	アシックスグループ
7. 従業員の通勤	423	0.0	日本国内のアシックスグループ
8. リース資産(上流)	-	-	-
9. 輸送、配送(下流)	7,905	0.9	アシックスグループ
10. 販売した製品の加工	-	-	-
11. 販売した製品の使用	9,485	1.1	アシックスグループ
12. 販売した製品の廃棄	33,766	3.8	アシックスグループ
13. リース資産(下流)	-	-	-
14. フランチャイズ	-	-	-
15. 投資	-	-	-
合計	892,326	100	

※1 計算方法:

カテゴリー1フットウェア Tier 1: (サプライヤーのエネルギー消費量) × (サプライヤーのアシックス生産量割合) × (各エネルギー別の排出係数)。

※再生可能電力による排出削減には、サプライヤーが購入した再生可能エネルギー証書 (REC) による削減効果も含まれます。

フットウェア材料: (生産量) × (過去のLCA調査による材料の排出係数)。

アパレル Tier 1: (生産量) × (過去のLCA調査によるTier 1の排出係数)。

アパレル材料: (生産量) × (過去のLCA調査による材料の排出係数)。

機器、マーケティング、販売: (購入財・役務の価格) × (購入財・役務の排出係数^{※2})。

※カテゴリー1の排出量には、リサイクルポリエステル、ソリューションダイ、およびバイオマス材の使用による削減効果を反映しています。

※2 計算は、2015年3月の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース (ver.2.2) に基づく排出係数を使用。



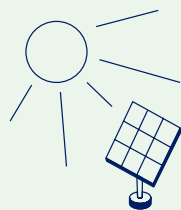
パートナーシップによる取組み

気候変動への対応は、アシックスがパートナーとともに取り組むべき課題です。サプライヤーが自ら再生可能エネルギーに関する目標や計画を策定し、実行することを促すため、2024年に「グリーン調達方針」を改定しました。この方針を通じてサプライヤーの取組みを支援し、2030年までに一次生産委託先工場が使用する電力の100%を再生可能エネルギー由来とするという目標の達成に向けた取組みを推進しています。2025年、アシックスはCDP気候変動評価において2年連続で最高評価の「A」を獲得するとともに、「サプライヤーエンゲージメントリーダー」に選定されました。

*詳しくはプレスリリースをご参照ください→



再生可能電力使用率の進捗



+5%
フットウェアの
戦略的一次生産委託工場での
再生可能電力の使用率が
5%向上

19.1%
(2024)

から

24.1%
(2025)

ASICS パートナーサミットでサプライヤーとの連携強化

Tier 1(生産委託先工場)およびTier 2(材料サプライヤー)との連携や協働を強化し、アシックスの方針への理解と協力を促進するため、2025年に日本でパートナーサミットを開催しました。サミットには、Tier 1企業5社から18名、Tier 2企業12社から40名の計58名が参加しました。初日は神戸のアシックス本社で開催し、2日目は

スポーツ工学研究所(ISS)およびアシックスミュージアムの見学を実施しました。これにより、参加者にはアシックスの理念やものづくりに対する姿勢について、より理解を深めていただきました。また、サステナビリティに関する最も優れた取組みを行ったサプライヤーを表彰しました。

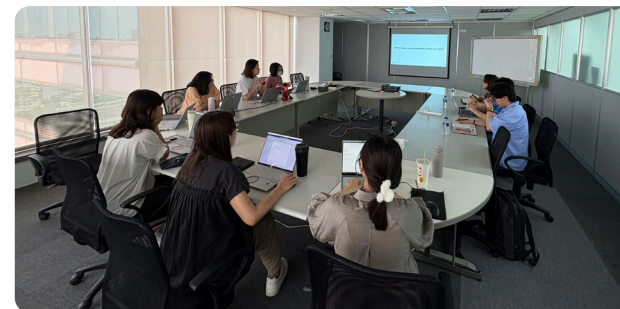


サプライヤーとの連携強化

CO₂排出量の削減には、Tier 1(生産委託先工場)およびTier 2(材料サプライヤー)との継続的な連携が不可欠です。これらのサプライヤーの多くが台湾に本社を置いており、またASICS Corporation Taiwan Representative Office (ACT) がこれまで生産および材料に関する業務を担ってきたことから、2026年にACTをサステナビリティに特化した組織へ再編し、台湾をサステナビリティ活動の拠点として位置付けました。

ACTは、2025年に設立されたサステナブルプロダクト推進部と緊密に連携しながら、Tier 1およびTier 2サプライヤーとの定期的なミーティングを実施し、一次データの収集や気候変動対策に向けたエンゲージメントの強化に取り組んでいます。また、シューズおよび材料に関する専門知識を活かし、データの精度向上を図るとともに、業界の最新動向を把握しています。今後もACTと連携しながら、サプライヤーとの

コミュニケーションを拡充し、パートナーシップを強化するとともに、業界におけるサステナビリティ動向に関する調査をさらに進めていきます。



カーボンフットプリント表示による お客様とのコミュニケーション

カーボンフットプリントの表示は、世界中でますます普及しています。カーボンフットプリントを表示することで、お客様がより環境に配慮した製品選びができるよう選択肢を充実させ、さらなる環境意識向上のきっかけとなることを目指しています。自社調査の結果、調査対象者の約65% (N=698) がカーボンフットプリント表示に対して肯定的な反応を示しており、アシックスが透明性を重視し、CO₂排出量の削減に取り組んでいることを評価していることが分かりました。

2025年には、アシックスはインナーソール（中敷）、シューズボックス、ECサイト、カーボンフットプリント専用ウェブサイト、ソーシャルメディア、店舗、およびランニングイベントを通して、お客様にカーボンフットプリント表示を共有しました。2025年にカーボンフットプリント表示が導入されたアシックス製品には、GEL-NIMBUS 27、GEL-KAYANO 32、GEL-RESOLUTION X、GEL-CHALLENGER 15、GEL-KINETIC FLUENT、GEL-QUANTUM 180が含まれます。

アシックスのカーボンフットプリントの評価は、アシックス独自の算出手法と、MITが実施した業界平均ランニングシューズに関する包括的なレポートに基づいて行われています。

[*詳しくはこちらをご参照ください →](#)

[*詳しくはホームページ「カーボンフットプリントとは？」をご参照ください →](#)



sound mind, sound body

 GEL-KAYANO™ 32 +10.3 kg CO₂e	 about 62.8 kg CO₂e a cosy woollen blanket	 about 32.0 kg CO₂e a bouquet of imported flowers	 about 0.04 kg CO₂e a hot cup of tea
	 about 16.0 kg CO₂e your signature scent	 about 9.5 kg CO₂e indulgent chocolate truffles	 about 1.5 kg CO₂e scented candles

Do you know your footprint?

We're committed to transparency.
See the carbon footprint of our latest shoes and other familiar items.

アシックス製品以外のカーボンフットプリントは推計値です（詳しくは：asics.com/mk/sustainability/carbonfootprintをご参照ください）。アシックスは公開情報に基づくデータを独自に検証しておらず、実際の排出量とは異なる場合があります。



TEAM JAPANオフィシャルスポーツウェアでの カーボンフットプリント表示

2025年に発表した、ミラノ・コルティナ2026オリンピック・パラリンピック冬季競技大会TEAM JAPANオフィシャルスポーツウェアにおいても、製品の環境負荷を透明性をもって開示するため、対象アイテム*にカーボンフットプリント表示を行いました。

同時に、一部のアイテムでは、循環型ビジネスモデルを考慮した製品設計および製造を行っています。ポディウムジャケット（アウトドア）には、GRS認証を受けたリサイクルダウンを使い、ポディウムジャケットとポディウムパンツ（インドアおよびアウトドア）には、アシックスが提携しているサプライヤーから出た廃材を使用したファスナーの引き手パーツを採用しています。

* 対象アイテム:ポディウムジャケット（アウトドア）、ポディウムパンツ（アウトドア）、ポディウムジャケット（インドア）、ポディウムパンツ（インドア）
アシックスは、TEAM JAPANゴールドパートナー（スポーツ用品）です。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください →](#)

お客様とともに取り組む 「Run for Reforestation Challenge」

毎年、アシックスはお客様に「Run for Reforestation Challenge」への参加を呼びかけることで、サステナビリティへの取り組みに参画いただくとともに、気候変動への対応という共通の目標の実現を目指しています。2025年には、このチャレンジの取り組みをさらに拡大し、参加者数は152,326人（2024年比1,176人増）、完走者数は102,711人（同6,761人増）となりました。

2025年もOne Tree Plantedと提携し、お客様がランニングまたはウォーキングを5km行うごとにアシックスが木を1本植樹しました。2025年のRun for Reforestation Challengeを通じて、インドネシア、ブラジル、米国カリフォルニア州、オーストラリア、ポルトガルで植樹が行われました。

「Run for Reforestation Challenge」の成果

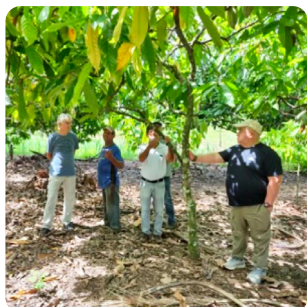
2024年比でチャレンジ完走者数が6,761人増



95,950
(2024)

から

102,711
(2025)



ブラジルでの植樹

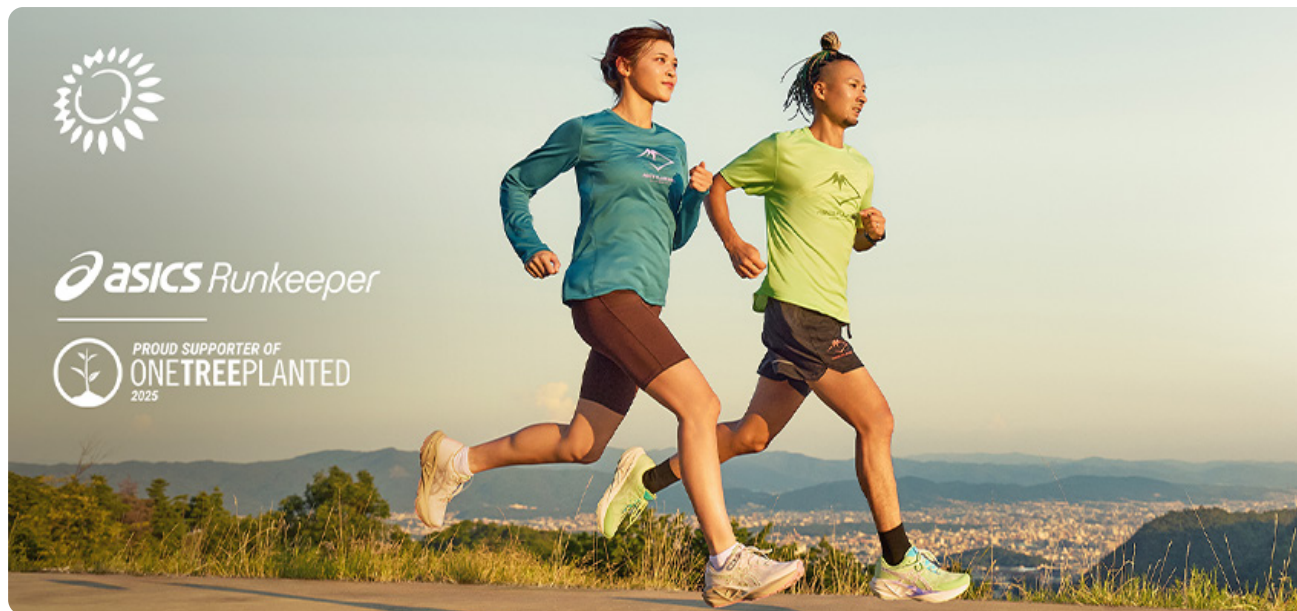


オーストラリアでの植樹

2025年森林再生プロジェクト

2025年、アシックスは5つの地域で5件の森林再生プロジェクトを支援し、山火事からの復興や気候変動への適応といった課題に取り組みました。Run for Reforestation Challengeの取り組みを通じて、カリフォルニア州の山火事後の景観回復、ブラジルにおけるアグロフォレストリーシステムを通じた森林再生、インドネシアの重要な泥炭湿地林の再生などを支援しています。

また、オーストラリアでは、ウジャリ族が文化的景観の再生に取り組む先住民族主導のプロジェクトを支援するとともに、ポルトガルでは歴史あるレイリア松林の再生を支援しました。これらのプロジェクトでは、在来種の保全、地域コミュニティとの連携、気候変動へのレジリエンスの強化を重視し、重要な生態系の広範な再生を進めるとともに、相互に関連する環境・社会課題への取り組みを推進しています。



アシックスが 植樹した本数

国名

プロジェクト名

27,433	インドネシア	2025年インドネシア - サバンガウ泥炭地再生 [第1フェーズ]
25,000	ブラジル	2026年ブラジル - カカオ・アマゾン
25,000	ポルトガル	2026年ポルトガル - レイリア自然再生
7,000	オーストラリア	2024年オーストラリア - カードゥジャヌツップ樹木再生
18,278	米国	2025年カリフォルニア州 - フェザー川流域の山火事復興

サステナビリティに関する 従業員エンゲージメント

アシックスでは、サステナビリティ、特に気候変動対策に関する取り組みについて、世界各地の従業員の理解と参画を促進するとともに、「サステナビリティ・エンゲージメント調査」を通じて意見を収集しています。2025年の回答率は前年比2ポイント上昇し、62%となりました。現在、各地域の人事チームとのコミュニケーションやネットワークの強化に注力するとともに、研修、従業員エンゲージメント施策、お客様向けキャンペーンを通じて、従業員との接点を広げています。

調査結果は今後の取り組みに活用しています。従業員から寄せられた意見では、改善が求められる主な項目として、部門レベルでの目標の明確化、事業活動やその他の取り組みにおけるサステナビリティ施策の優先度向上、サステナビリティに関する知識の向上が挙げられました。

これらの課題に対応するため、アシックスは、サステナビリティを事業目標に一層組み込むとともに、従業員に向けた研修のさらなる充実に取り組んでいます。

従業員向けサステナビリティ研修

2025年は、グリーンウォッシング、強制労働、サステナビリティアンバサダープログラムの3つの分野で研修を実施しました。

グリーンウォッシュ防止研修は、マーケティング、製品企画・開発、営業部門の従業員を対象とし、958名が受講を修了しました。さらに50名の従業員が簡易版の研修に参加しました。これらの研修により、参加者のグリーンウォッシュに対する理解度は実施前と比較して239%向上しました。2026年から、欧州では、サステナビリティに関する新たな表示規制が施行されます。アシックスは、この新たな法規制の内容



をプログラムに組み込み、各地域と連携しながら、より多くの人々に向け研修を実施する計画です。

強制労働に関する研修は、生産、開発、広報部門の従業員を対象として実施されました。

アシックスのサステナビリティアンバサダープログラムは、サステナビリティに関する知識をさらに深めたいと考えるアシックスの従業員を対象としています。2025年には、このプログラムを世界各地へ展開し、合計152名が参加しました。

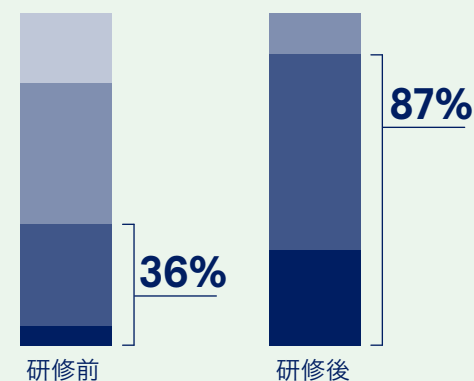
実効性の高いサステナビリティプログラムは、あらゆる真の変化と同様に、その重要性を理解する人々から始まります。The School of Understandingは、まさにそのために設けられたプログラムです。そして、世界中のアシックスの従業員がその学びに積極的に取り組む姿を見ることを、大変うれしく思っています。

The Underswell's School of Understanding
サステナビリティ・アドバイザー
Derek Sabori

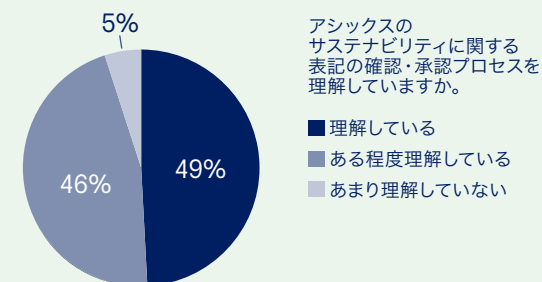
グリーンウォッシングに対する理解度

2025年のグローバル・サステナビリティ研修プログラムを通じて、従業員のグリーンウォッシングに関する理解度が向上しました。

研修前後におけるグリーンウォッシングへの 理解度の大幅な向上



研修を受講した従業員の95%が、 アシックスのサステナビリティに 関する表記の承認プロセスを理解していると回答



アシックスのサステナビリティに関する表記の確認・承認プロセスを理解していますか。

■ 理解している
■ ある程度理解している
■ あまり理解していない



地域活動： ウォーキングとプロギングで取り組む気候変動対策

トライアスリート、従業員、その他のステークホルダーが、ウォーキングやランニングをしながらごみ拾いを行う「プロギング」を通じて、地球環境の保全に取り組みました。アシックスジャパンは、トライアスロンジャパンとプロギングイベントを開催し、お客様や従業員などの参加者が公式トライアスロンコースを走りました。

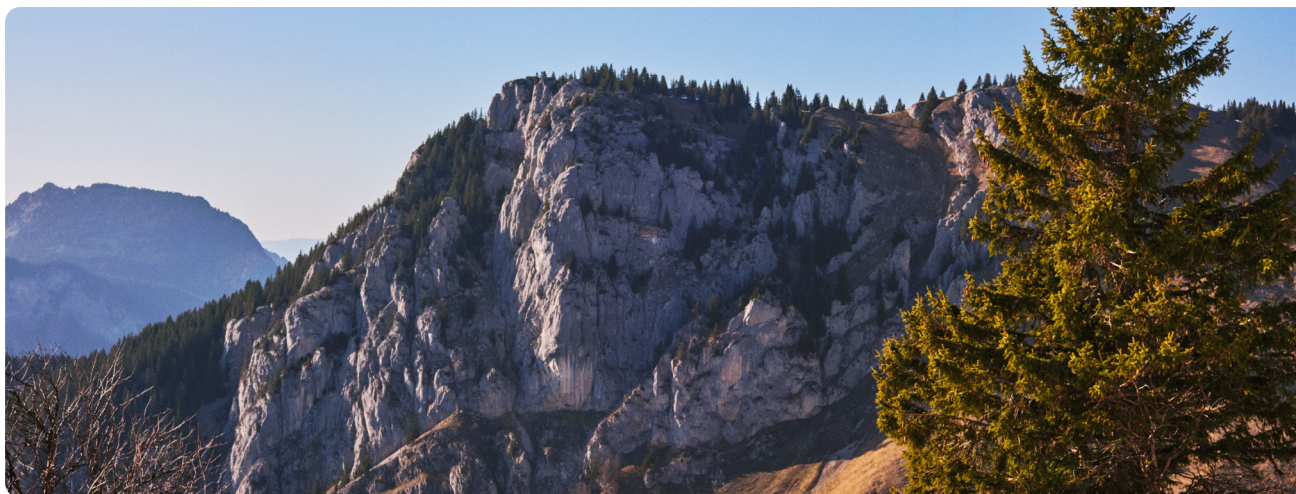
アシックスオセアニアでは、サステナビリティの取組みの一環として、毎月チームウォーキングやランニングを開催し、社内のサステナビリティ活動の活性化、意識啓発、チャリティ活動に取り組んでいます。年間を通じて、Run for Play、Keep Australia Beautiful Week、Movember（男性のメンタルヘルスおよび自殺予防啓発）、Australian Childhood Foundation（ニューサウスウェールズ州の支援を必要とする子どもたちを支援する団体）など、さまざまな取組みを支援しました。



スポーツを通じた地球環境の保全

2025年4月、アシックスのエグゼクティブ・アドバイザーである吉川美奈子は、大阪・関西万博で開催された国連バビリオンのイベント「Playing for the Planet: The Role of Sports in Driving Sustainability」に登壇し、気候変動対策、人権、ジェンダー平等の推進においてスポーツが果たす役割について紹介しました。

また、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPQ）および公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）が共催した「令和7年度スポーツと環境カンファレンス」において、アシックスのサステナビリティに関する取組みを紹介しました。同カンファレンスには、56の国内競技連盟の環境担当者を含む約70名が参加し、スポーツにおける環境課題への対応に向けた連携強化を図りました。



循環型ビジネス

アプローチ

使う資源を減らして長く使える製品を生産し、資源を循環させ、環境負荷を低減します。

[*詳しくはホームページ「循環型ビジネス」をご参照ください→](#)

持続可能な成長の中核にある循環型ビジネス

ネットゼロの実現に向けて、循環型アプローチは重要な役割を果たします。廃棄物の削減に向けて実施しているさまざまな取組みは、単独の施策ではなく、資源や製品の寿命を延ばし、その価値を可能な限り長く活かし続けるという循環型ビジネスの原則に基づいています。



2025年の主な活動

→ 他産業と連携し、複数の製品を発売。

2026年以降の計画

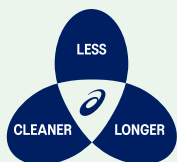
→ 明確な戦略方針のもと、各カテゴリーと連携したリサイクル材使用比率向上への取組みの推進。
→ NIMBUS MIRAI™の製品回収プログラムを拡大。

このアプローチを戦略の中核に据えることで、環境への負荷を削減し、持続可能な事業活動とネットゼロへの取組みを着実に推進しています。

循環型ビジネスの取組みは、機会をもたらす一方で、バリューチェーンの下流から上流へ製品を回収・循環させるといった課題も伴います。お客様に届いた製品を回収することは、法規制や物流面での課題から業界全体が直面する課題です。循環型ビジネスモデルの構築に伴うこれらの課題に向き合うため、アシックスは、業界のさまざまな組織と連携し、お客様とのコミュニケーションを深め、意識の向上を図っています。

アシックスのデザインフィロソフィーは、製品の企画から廃棄に至るまで、循環型の考え方を取り入れています。長く使い続けられる高品質な製品作りを目指しています。リサイクル素材ならびにリサイクル可能な素材の使用を増やし、廃棄物の削減や再利用を推進するとともに、お客様向けに製品回収サービスを提供しています。アシックスは、より少ない材料で長持ちする製品を作り、資源の循環を促進することによって、CO₂排出量およびその他の環境負荷を低減することを目指しています。その一環として、2030年までにシューズとスポーツウエアにおいて、再生ポリエステル材の使用率100%を目指しています。2025年には使用したポリエステル素材の50%以上が再生ポリエステル材となりました。

循環型ビジネスへのアプローチ



アシックスでは、3つのキーワード「より少なく (LESS)」、「よりクリーンに (CLEANER)」、「より長く (LONGER)」を通じて循環型ビジネスへのアプローチを推進しています。

バリューチェーン全体を通して事業活動に組み込み、温室効果ガス排出量の削減や、水や資源の使用量、廃棄物の削減を目指しています。

廃棄とリサイクル

LESS より少なく

→ リサイクルのための製品引き取りプログラム(日本、米国)。

CLEANER よりクリーンに

→ 製品における有害物質を排除する。

LONGER より長く

→ 再利用のための製品引き取りプログラム(日本、米国)。

販売と製品の使用

LESS より少なく

→ 製品の包装を削減する。
(ショッピングバッグを含む)

CLEANER よりクリーンに

→ 環境に配慮した家具や内装を採用する。
→ 「Run for Reforestation Challenge」などの環境イベントの参加や、推進を行う。

LONGER より長く

→ ウォーキングシューズの修理サービス(日本)。
→ 返品された商品を再販する(米国)。

設計と開発

LESS より少なく

→ シンプルな設計により、材料の使用量と加工を削減する。
→ リサイクルを考慮した設計。

CLEANER よりクリーンに

→ リサイクル素材(再生ポリエステル材など)の使用。
→ その他の調達において、倫理的で、環境に配慮された材料の使用。

LONGER より長く

→ 耐久性の向上。
→ 修理を考慮した設計。
→ 修理可能な設計。

材料調達と製品の製造

LESS より少なく

→ デジタルを活用したサンプル作成を推進する。
→ 材料の廃棄量を減らす取組みや廃材の再利用を推進する。

CLEANER よりクリーンに

→ グリーン調達方針を策定し、サプライヤーとの対話による温室効果ガス排出量削減目標の設定、省エネ、再生可能エネルギーへの切り替えを進める。

LONGER より長く

→ 再生ポリエステル材の使用拡大およびサプライヤーとのパートナーシップを強化する。

事業所 (オフィス、店舗、配送センター)

LESS より少なく

→ 省エネ・再生可能エネルギーへの切り替えを進める。
→ 廃棄物の削減(紙、包装)。

CLEANER よりクリーンに

→ オンサイトおよびオフサイトでの再生可能エネルギーの調達。
→ リサイクル素材または環境に配慮された製品を使用する。

LONGER より長く

→ 事業所などで、プラスチック使用を減らし、再利用可能なコップ、皿、カトラリー使用を推進する。

物流

LESS より少なく

→ 製品の包装、輸送およびECでの包装を削減する。
→ 生産拠点を市場に近づけ、輸送距離を短縮する。

CLEANER よりクリーンに

→ 海上および陸上輸送に低炭素輸送オプションを使用。
→ 製品の包装にリサイクル素材などの環境に配慮された材料を使用。

LONGER より長く

→ 返品された製品を再利用する取組みが可能な物流を目指す。

デザイン・協働・参加を通じた 循環型ビジネスの推進

循環型ビジネスは単独で達成できるものではありません。アシックス社内や業界内だけでなく、業界を超えた連携や社会の皆様とも連携して取り組む必要があります。アシックスの循環型ビジネスに向けた活動は、廃棄物に関する取組みや製品デザインをはじめ、消費者や従業員エンゲージメント、そしてコミュニケーションに至るまで、広い範囲にわたっています。

2025年には、多くの企業と協力して循環型設計のシューズやさらには家具の製造にも取り組みました。

Circular Shoes for TEAM JAPAN

ミラノ・コルティナ2026オリンピック・パラリンピック冬季競技大会では、TEAM JAPANのオフィシャルスポーツウェアに加え、トレイルランニング用シューズGEL-Trabuco MT GTXをベースにしたシューズも作製しました。ペロ部（シュータン）の裏材の約5%に、ランニングやデ일리ユースで約5カ月間使用されたNIMBUS MIRAI™シューズを約70足分回収・リサイクルし、生成された再生ポリエステル素材を使用しています。

※アシックスは、TEAM JAPANゴールドパートナー（スポーツ用品）です。



NEOCURVE™が評価されたイノベーション

アシックスの循環型ビジネスへの取組みが評価され、2024年末に発売したNEOCURVE™スニーカーが、米TIME誌の「The Best Inventions of 2025: Special Mentions」に選出されました。同誌の編集部は「古い靴に新たな命を吹き込む (Giving old shoes new life)」という点を高く評価し、今年最も先進的な発明のひとつとして紹介しています。

[*詳しくはこちらをご参照ください→](#)

製品を長く使い続けられるよう設計し、
使用後もその価値を循環させることで、
人々の健康だけでなく、
持続可能な社会の実現にも
貢献していきます。

サーキュラーエコノミー
推進部 部長
立石 純一郎



2025年大阪・関西万博で採用された 循環型設計のシューズ

2025年大阪・関西万博の2つのパビリオンにおいて、アシックスのシューズが公式シューズとして採用されました。

「Chasing the Sun — 太陽の大地へ」をテーマとするオーストラリアパビリオンは、サステナビリティとリユースの理念に基づいて設計されており、使用後にリサイクルできるよう設計されたNIMBUS MIRAI™と共通点があることから、スタッフ用シューズとして採用されました。

「コモングラウンド (共に分かち合い、新しい価値を生み出すこと)」をテーマとするオランダパビリオンでも、スタッフ用シューズとしてNEOCURVE™が採用されました。NEOCURVE™は、使用されずに廃棄予定となったシューズを原料にして作られており、サーキュラリティの推進を掲げるオランダパビリオンの理念にアシックスが共感したことで、コラボレーションが実現しました。

[*詳しくはホームページ「NIMBUS MIRAI™」をご参照ください→](#)

[*詳しくはホームページ「NEOCURVE™」\(英語\)をご参照ください→](#)



オーストラリアパビリオンで履かれたNIMBUS MIRAI™



業界を超えたコラボレーション:SKYHAND OG

アシックスは自動車部品メーカーの豊田合成株式会社と協働し、自動車のハンドルに使用している自動車用レザーの端革を採用したシューズ「SKYHAND OG」を発表しました。これは、2023年の本来廃棄される予定だったエアバッグの生地を再利用した「GEL-SONOMA 15-50」の発売に続く、豊田合成との2回目のコラボレーションプロジェクトです。

「SKYHAND OG」は、実際の生産ラインで日々発生する端革を使用するという、さらに一歩踏み込んだ取組みです。豊田合成の端革から作られたスエードとスムーズレザーを、サイドとかかと部、ベロ部に採用しており、これらがメインアッパー部分の50%以上を構成しています。

一般的に廃棄素材には明確な基準がなく、プロジェクトでは基準を整理することから始め、これが最もチャレンジングな作業でした。シワなどの状態について、許容できる範囲をひとつひとつ定義し、どのレベルまでであれば素材として価値があると言えるかを判断する必要がありました。品質そのものの以上に、流通、価格体系、法令対応の整

備に多大な時間を要しましたが、業界の垣根を超えて挑戦ができたことに成果を感じています。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

シューズを原料に用いた家具

アシックスは、アシックス製シューズのデッドストックやサンプル品などを粉砕した材料を、家具メーカーのカリモク家具株式会社に提供しました。提供した材料はクッション性や耐久性をもつことからソファの座面に採用され、カリモク家具によりシューズ由来の材料を採用した家具製品が誕生しました。アシックスが、廃棄予定となったシューズを原料に用いたスニーカーNEOCURVE™を2024年に開発後、この仕組みをシューズ以外の分野で活用できないか可能性を探

るなか実現したプロジェクトになります。カリモク家具と協力し、マテリアルリサイクルの技術により分解、粉砕して分別されたフォーム材(EVA)を綿と混合させた家具用クッション素材を開発し、柔らかさと適度なサポート性を兼ね備えた座り心地を実現しています。カリモク家具のブランド「Karimoku New Standard」の2モデル「Castor Lobby Sofa」、「Polar Lounge Chair」に採用され、2025年5月、移転したばかりのアシックスジャパン本社(東京)に、14台のチェアを設置しました。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)



地域活動

循環型ビジネスを楽しく学ぶ

アシックスは、日本の成城学園初等学校の2年生35名を対象に、循環型ビジネスをテーマとした体験型授業を実施しました。授業では、風船を使ったアクティビティや紙芝居、NEOCURVE™の紹介を通じて、循環型の考え方について学びました。生徒たちは、生産工程で発生する端材を何に生まれ変わらせることができるかを話し合い、それぞれのアイデアを発表しました。



アシックスは、いしかわ環境フェア実行委員会(石川県)が主催する「いしかわ環境フェア2025」に出展し、遊びを通じてサステナビリティについて学べるエコボッチャワークショップを実施しました。使用したボールは、100%リサイクル素材から再生されたフェルトで作られており、ボールを編む糸には販売できないサンプルシューズから回収した靴ひもを使用しています。この活動を通じて、子どもたちはパラスポーツに親しみ、循環型の考え方への関心を深めるとともに、さまざまな人々と一緒にプレーすることで多様性を体験しました。

世界各地でのリサイクル・回収プログラム

アシックスヨーロッパは、この地域に現在も5つの使用済みシューズ回収ボックスを設置しています。そのうち4つはアムステルダム、マドリッド、バルセロナ、パリの旗艦店に、もう1つはオランダ・ホーフトドルプにあるアシックスヨーロッパ本社に設置されています。回収したシューズはすべてFastFeetGrindedに送られ、使用済みシューズやデッドストック、不良品を新たなシューズやその他の製品・事業の原料として再資源化しています。

アシックスオセアニアでは、資源循環の取り組みとしてコーヒーかすを堆肥化し、オフィス内の菜園で活用しています。オフィスのコーヒーマシンには、コーヒーかすを捨てるタイミングを知らせる機能が備わっており、そのそばには堆肥用と明記された小型のごみ箱が設置されています。

日本では、トゥモロー・プロジェクトによる東日本大震災復興支援活動の一環として、アシックスは東北風土マラソン&フェスティバルを後



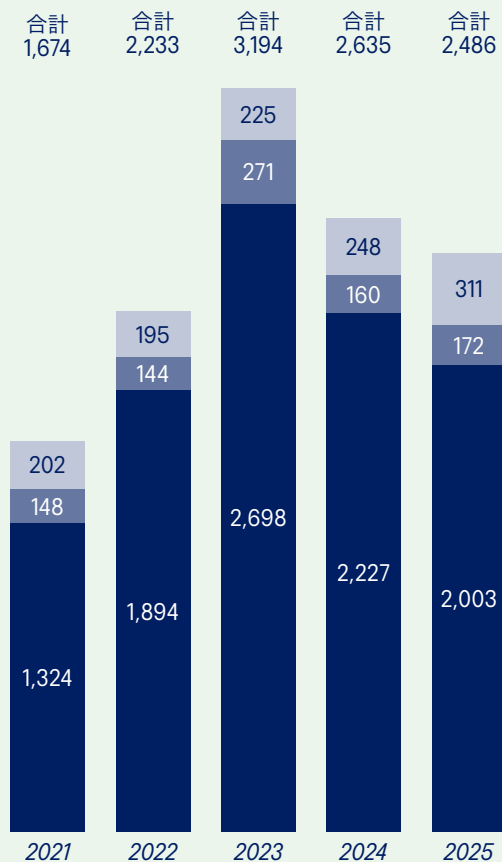
援するとともに、会場で資源循環の取り組みを実施しました。ランナーに呼びかけて着なくなったスポーツウェアを回収し、回収したすべてのウェアはGREEN BAG PROJECTに提供しました。2025年には、アシックスジャパンはGREEN BAG PROJECT向けに、小売店舗やイベントで合計111.5kgのウェアを回収しました。

[*東北風土マラソン&フェスティバル公式サイト→](#)



廃棄物のリサイクルと回収(トン)

■ 廃棄物/埋め立て
■ 回収
■ リサイクル



2025: 12社、25拠点、事業の59%をカバー (FTEベース)
 2024: 13社、23拠点、事業の61%をカバー (FTEベース)
 2023: 14社、24拠点、事業の57%をカバー (FTEベース)
 2022: 10社、20拠点、事業の64%をカバー (FTEベース)
 2021: 11社、26拠点、事業の70%をカバー (FTEベース)

廃棄物マネジメント

循環型アプローチを推進するうえで、廃棄物は重要な要素です。アシックスは、事業活動で発生する廃棄物の削減に努めるとともに、可能な限りリサイクルや回収・再利用を推進することで、製品の原材料として有効活用することを目指しています。

現在、アシックスで発生する廃棄物の大部分(2025年は87%)がリサイクルまたは再利用されています。また2025年から、フットウェアの企画・生産過程で発生するサンプル製品由来の廃プラスチックについて、従来の焼却処理から燃料化へと切り替えを進め、日本における資源循環の取組みを強化しています。さらに、販売データに基づく在庫管理を強化し、過剰在庫の防止にも取り組んでいます。

一方で、現在のデータ収集には、さらなる改善の余地があると認識しています。アシックスでは、クラウドデータベースを活用して廃棄物データを収集・管理しており、今後もデータの精度と網羅性の向上に努めていきます。また、認可を受けた廃棄物処理業者と連携し、廃棄物が適切に処理されるよう取り組んでいます。引き続き、これらの業者がアシックスの基準を満たし、関連法令を遵守していることを確認するため、定期的に文書の確認を行い、管理体制の維持・強化に努めていきます。



生物多様性と水の管理

アプローチ

自然資本への影響を最小限に抑え、持続可能性の向上を目指します。

※詳しくはホームページ「生物多様性と水の管理」をご参照ください→

貴重な資源の保護

アシックスは綿や天然皮革などの天然素材を調達しており、水をはじめとする重要な資源やそれらを提供する生態系に支えられています。アシックスは生物多様性の重要性とともに、アパレルおよびフットウェア業界が生態系に与える影響を理解しています。アシックスの生物多様性に関する方針では、天然素材の調達、水資源管理、繊維の染色などの分野における、アシックスビジネスと生物多様性との関係について説明しています。



2025年の主要な活動

→ LEAP分析を実施し、重点的に取り組むべき分野を明確化。

2026年以降の計画

→ トレーサビリティをさらに向上させ、認証原材料の調達を進める。

アシックスは、レザー・ワーキング・グループ (LWG) のメンバーであり、The Fashion Pact (ファッション協定) に加盟し、持続可能な森林管理も支持しています。また、2030年までに森林破壊と土地転換のないレザーを100%達成するというLWGの目標に賛同しています。

さらに、サプライヤーと協力して、天然素材への依存度が低い製品を開発する取り組みを進めています。アシックスのイニシアティブは、製品や包装資材の両方でリサイクル素材を調達し、水の消費量を削減する技術を採用するなど生物多様性への取り組みを進めています。併せて、原材料のトレーサビリティの強化についても目指しています。

生物多様性への取り組み

アシックスは、生物多様性と気候変動は同時に取り組むべき課題であり、これらを一体として対応していかなければならないと考えています。気候変動は地域種の喪失と生物多様性の減少を引き起こし、自然界における炭素の蓄積量を減少させ、結果的に気候変動が進行します。

アシックスは、世界的なスポーツ用品メーカーとして、生物多様性をはじめ環境に影響を及ぼす可能性のあるさまざまな素材を使用しています。これらの影響を把握するため、アシックスは自然関連財務情報開示タスクフォース：Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (TNFD) が推奨する分析フレームワークであるLEAPアプローチ (Locate: 発見、Evaluate: 診断、Assess: 評価、Prepare: 分析) を採用しています。

2025 LEAP分析

近年、ESG 格付け機関や投資家およびNGOから、生物多様性に関する情報開示の要請が増加しています。これを受け、アシックスはTNFDの枠組みで提唱されているLEAPアプローチを用いて、アシックスで初となる生物多様性アセスメントを実施しました。

LEAP分析は、主に以下の4つのステップで構成されています：

- ・自然との接点を発見 (Locate) する
- ・自然への依存と影響を診断 (Evaluate) する
- ・具体的なリスクと機会を評価 (Assess) する
- ・対応と報告を準備 (Prepare) する

アシックスの事業活動における重要性および外部ステークホルダーの関心を考慮し、バリューチェーンの上流を対象に、合成系原材料、天然皮革、綿、リサイクル紙の分析を実施しました。一次情報と外部データの両方を活用し、ENCOREやMaterials Impact Explorerといったツールに加え、Natural History MuseumやAQUEDUCTなどが提供するオープンデータソースも活用しました。

LEAPアプローチに基づき優先分野を特定し、続いてそれらの分野

におけるアシックスの事業活動が生物多様性に与える影響や、自然資本への依存度を評価しました。

結果

乾燥地域における綿花栽培が水供給に依存していることとそれに起因する物理的リスクが重要な課題として特定されました。牛の飼育に関連する森林破壊、綿花の染色工程に伴う水質・大気汚染、および合成系原材料を用いた製造は、細心の注意を要する影響として評価されました。

綿および天然皮革については、調達量は比較的限定的であるものの、本評価で特定されたリスクに対処するため、トレーサビリティの強化を継続するとともに、認証原材料の調達や水の使用量が少ない染色技術の導入などの措置を講じていきます。調達量が最も多い

合成系原材料を対象に、適切な化学物質管理と廃棄物処理を実践するため、ステークホルダーとのコラボレーションを継続していきます。さらに、在庫の適正化、責任ある原材料の使用、認証原材料の調達、製品の耐久性向上などの対策を講じます。

また、本評価では二次データを用いて特定された地域もあるため、原材料のトレーサビリティの向上に努め、より詳細な目標や行動計画およびタイムラインの設定については、必要性を含め、検討してまいります。

*詳しくはホームページ「生物多様性の分析報告」をご参照ください
[→](#)

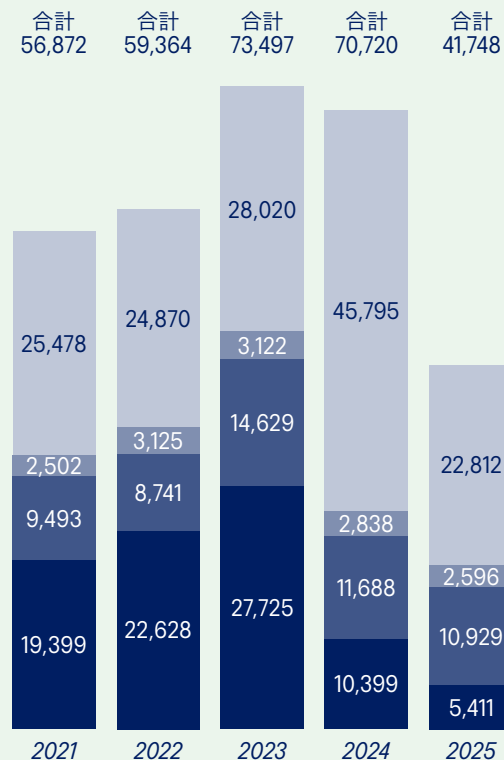
アシックスにおけるLEAP分析の概要

(Scoping) 分析対象の決定	対象 Value Chain	VC上流 (原材料生産)				VC上流 (原材料加工)			VC上流 (製造委託)	自社	VC下流 (販売・廃棄)
	原材料 × 工程	合成系原材料 × 一次形成の製造	天然皮革 × 牛の飼育	綿 × 綿花栽培	合成系原材料 × 紡糸加工	綿 × 紡績加工	リサイクル紙 × リサイクル パルプ製造	天然皮革 × なめし工程	全原材料		
	(参考)調達規模	大	小	小	大	小	中	小			
	方針	分析対象								分析対象外	
(Locate) 優先地域の特定	優先地域※	タイ マレーシア インドネシア 台湾 ベトナム	ブラジル アメリカ	パキスタン オーストラリア	インドネシア 台湾 ベトナム 中国	スリランカ ベトナム	ベトナム	LWG 認証を取得 する過程で環境負 荷は一定の水準以 下にある	分析対象外		
(Evaluate) 影響・依存の 評価	依存・影響	(影響) 水質・土壌汚染	(依存) 森林破壊	(依存) 水供給	(影響) 水質・土壌汚染	(影響) 水使用 水質・ 土壌汚染	重要な依存・ 影響なし	分析対象外			
(Assess) リスク・機会の 評価	移行・ 物理リスク	(移行) 環境イメージ 低下による 売上減少	(移行) 環境規制強化に 伴う罰金増加・規 制強化によるサ プライヤーへの 切替コスト増加	(物理) 水供給減少によ る綿花生産減少 により原材料コ スト増加	(移行) 環境イメージ 低下による 売上減少	(移行) 環境イメージ 低下による 売上減少					
	機会	自然への影響が 少ない原材料へ の切替による水 質・土壌汚染地 域の環境負荷 低減	失われた自然を 回復する取組み の推進による森 林の回復、サプ ライヤー切替コ スト減少	環境負荷の低い 認証材の使用な どにより天然綿 花の持続可能な 調達	原材料への切替 による紡糸加工 場周辺地域の環 境負荷低減	自然への影響を 低くする取組み の推進によるサ プライヤーや仕 上工程周辺地域 の環境負荷低減	分析対象外				

※これらは二次情報を含む情報を利用して推定した結果であり、当該国の原材料を使用していることを示すものではありません。

水使用量 (m³)

■ オフィス
■ 工場
■ 配送センター
■ 直営店



2025 : 20社、57拠点、事業の64%をカバー (FTEベース)
 2024 : 14社、53拠点、事業の67%をカバー (FTEベース)
 2023 : 23社、72拠点、事業の69%をカバー (FTEベース)
 2022 : 13社、68拠点、事業の67%をカバー (FTEベース)
 2021 : 13社、74拠点、事業の69%をカバー (FTEベース)



水の消費量の抑制

生物多様性への影響は、アシックスのウォーターフットプリントを通じても生じており、生産に伴う排水や水質の汚染が環境に悪影響を及ぼしています。アシックスは、この影響を最小限に抑えるよう努めており、生物多様性への影響を軽減することに貢献しています。

この取組みを推進するため、データ管理システムを通じて、アシックスの各施設における取水量（主に上水）および排水量を測定・管理・監視しています。また、アシックスの事業活動による影響はサプライチェーンにも及ぶことを認識していることから、ステークホルダーとの連携を重視した取組を進めています。Higg FEMを通じて、一次サプライヤーであるシューズメーカーから年間の水使用データを収集しています。このデータには、淡水使用量に加え、水ストレス地域における水使用に関する詳細な情報も含まれています。

アシックスは、こうした影響を最小限に抑えるよう努めることで、生物多様性の保全にも貢献しています。生産工程の中でも、染色は特に多くの水を使用する工程のひとつです。そのため、ソリューションダイなどの代替技術を採用し、水使用量の削減に取り組んでいます。

より持続可能な綿の調達[※]

綿はアシックスのアパレル製品で使用されている天然繊維のひとつです。使用量は限られているものの、綿の使用により自然への影響は少なからず生じます。アシックスは、2025年までに、より持続可能な綿を100%調達することを目指していました。

2025年のPreferred Cotton（第三者によって認証されたより持続可能な綿）の採用率は84.6%となり、2025年の目標には未達となりました。この結果の主な理由は、特にアパレル事業において、地域の販売会社が独立して企画・製造・販売する製品での採用が進まなかったことです。LEAP分析で示されているように、特に課題が特定された地域を中心に、第三者によって認証されたより持続可能な綿の採用の重要性に対する理解の促進に引き続き取り組みます。また、採用率の向上に向けた取組を継続し、進捗を毎年開示します。さらに、トレーサビリティの向上を重要な優先事項として認識しており、その強化を目指した取組を継続してまいります。

※ベターコットン (BC)、オーガニックコットン (GOTS認定済み)、Fairtrade 認定済み、リサイクルコットン (GRS認定済み)、Cotton made in Africa (CmiA)、U.S. Cotton Trust Protocol認定済みの綿。

自然への影響と依存関係を明らかにすることで、スポーツができる環境を守り、生物多様性を長期的な価値創造とイノベーションに組み込めるよう、戦略的にアプローチしていきます。

サステナビリティ部
環境チーム マネジャー
阿部 頌太郎



製品とサービスの品質

アプローチ

製品・サービスの安全性、品質および機能性を追求し、人々の心身の健康に貢献します。

※詳しくはホームページ「製品とサービスの品質」をご参照ください→

安全と品質を保証するガイドラインおよび基準

アシックスは、製品の安全性と品質を向上させるために、バリューチェーン全体にわたりそれぞれの部署が果たすべき役割と責任を定めています。

さらに、各国の最新法規制および蓄積された知見に基づき、材料、部材、および製品に関する安全性と品質の基準を継続的にアップデートし、製品の開発と生産を通じて遵守しています。また、開発段階ですべての製品を対象に、安全性と品質についての審査を実施しています。



2025年の主要な活動

- 有機フッ素化合物（PFAS）排除の取組みを継続した結果、世界中で販売されているアシックス製品の99.7%でPFASを含まない状態を達成（米国では100%達成）。
- 製品コンプライアンスを担う役割・体制を整備。

2026年以降の計画

- 2028年春夏シーズン以降、世界中で販売する製品の100%でPFAS不使用を達成。

製品およびサービスの広告宣伝物などの表示についてのガイドラインに基づき、マーケティングやラベリングなどの製品情報に関するコミュニケーションが、事実に基づき、お客様に誤認を与えないことを確認するため、審査システムを運用しています。アシックスは、環境と社会に関するコミュニケーションが正確で誇張されることのないよう、また競合他社の製品についてお客様に誤った情報を提供しないよう細心の注意を払っています。2025年には、表示に関するコンプライアンス違反はありませんでした。

製品の安全性と品質を保証する仕組みには、従業員およびサプライヤー向けの研修や、製品事故・製品不良が発生した場合の対応プロセスが含まれており、バリューチェーンのあらゆる段階で製品の安全性と品質が一貫して保たれるようにしています。

化学物質の適切な管理

アシックスは、法令・規制の進展に合わせ、製品に含まれる有機フッ素化合物（PFAS）の100%排除に取り組んでいます。2025年には、世界中で販売された製品の99.7%にはPFASの意図的な添加はなく、100%という目標に近づいています。なお、残りの0.3%の製品は、実用的な代替手段がまだ存在しない限定的かつ不可欠な用途に使用されているものであり、販売される各市場の適用法令・規制に準拠しています。アシックスは、2028年春夏シーズンまでに、PFASの意図的な添加を全廃する予定です。

製品の安全性と品質は、アシックスの長期的な信頼の揺るぎない基盤です。

安全品質保証部 部長 吉村 あや





アシックスは業界と連携し、毎年最新のAFIRM RSL (Apparel and Footwear International RSL Management Groupが発行する制限物質リスト)を活用することで、人と環境に悪影響を及ぼさない安全な製品の提供に努めています。また、サプライチェーン全体で化学物質管理を推進しており、サプライヤーのコンプライアンス証明書、サプライヤーによる検証試験、および自社による抜取試験を通じて、法令や基準への適合状況を継続的に検証しています。

また、揮発性有機化合物 (VOCs) の年間排出量を算定し、報告を行っています。フットウエア、とりわけ高機能なスポーツ用フットウエアの製造には、接着剤の使用を伴います。従来、フットウエアの製造にはVOCsを含む有機溶剤をベースとした接着剤が使用されてきました。しかし、これらの有機溶剤は人の健康や環境に悪影響を及ぼす可能性があります。私たちは2011年以降、水をベースとした接着剤へ切り替えることで、VOCsの使用量を削減してきました。2025年には、アシックスの戦略的工場におけるVOCsの使用量は3,937トンと推定されました。この数値は、工場での廃棄量を含む、接着剤な

どの総消費量に基づいて算出しています。すべてのVOCsを慎重に管理し、環境および健康への影響を最小化するよう努めています。

安全性の確保

アシックスは、すべての製品を対象に、開発段階で製品の安全性と品質について審査を実施しています。審査の実施率は、ほぼ100%を維持しています。

2025年、日本で製品の自主回収が1件ありました。靴ひもを通すアイレットが容易に外れ、転倒に繋がる可能性があったためです。この自主回収を受け、アイレットの固定方法を改善するとともに、再発防止に向けて標準作業手順書 (SOP) を見直しました。私たちは、こうした問題から得た知見を、より安全な製品づくりに活かしています。

製品に関する課題への取り組み

近年、製品に対する各国の法的要求事項は、製品の安全性や品質にとどまらず、環境対応や情報開示といった新たな分野へ急速に拡大しています。こうしたさまざまな法的要求事項に対応していくことは、アシックスにとって大きな課題となっています。例えば、EUで導入が予定されているデジタル製品パスポートについては、サプライチェーンから情報を収集し、ITシステムを構築するために多大なコストと労力が必要となります。

この課題に取り組むため、アシックスでは安全性と品質以外の側面も取り入れた製品コンプライアンスを担う体制を構築しました。地域や役割の垣根を越えて関連する部署が連携し、製品コンプライアンスの推進に取り組んでいます。

財務的影響を含むシナリオ分析（TCFD）

アシックスはダブルマテリアリティアプローチによって、サステナビリティでの重要なテーマを決定しています。気候変動に関しては、アシックスが地球の環境に与える影響だけではなく、気候変動による財務的影響を含むアシックスの事業活動に与える影響を考慮する必要があります。それを判断するために、アシックスは気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）にしたがって、2023年にはすべてのビジネスを対象としてシナリオ分析を実施し、想定される将来シナリオのもとでの事業戦略のレジリエンスを把握しました。

この分析では、1.5℃、2℃、4℃シナリオを想定しました。気候変動に関係するリスクと機会を分析するにあたり、ネットゼロへのロードマップを反映させるために、2030年と2050年を時間軸に設定しました。

このシナリオの選択は、2030年時点では+2℃と+4℃のシナリオではほぼ同じ気温変化が起こると言われているためであり、物理的リスクの影響は2030年以降に大きくなると予想されているためです。

- ・ IEAのシナリオ —— 移行リスクとの関連性が深くなっています。具体的には、複数のIEA科学シナリオ、すなわち1.5℃についてはIEA NZE 2050、2℃についてはEA APS、そして最大4℃についてはIEA STEPSを参照しました。
- ・ RCPのシナリオ —— 物理的リスクとの関連性が深くなっています。具体的には、複数のRCP科学シナリオ、すなわち2℃についてはRCP 4.5、4℃についてはRCP 8.5を参照しました。

アシックス製品に使用する材料の価格動向や製品表示規制などのパラメータは、関連するコストに影響を与えると考えられます。関連するステークホルダーが、報告および表示の方法を可能な限り整合させることを目指すと仮定しました。そのため、個別に対応するためのコストは含めていません。

アシックスの製造拠点の所在地や主要マーケットの暑さ指数などのパラメータは、気候リスクのレベルに影響を与えると考えられます。2030年に向けて、主要な製造拠点や主要マーケットは基本的に変わらないと仮定しました。そのため、他の場所に対応するためのコストは含めていません。

分析の選択肢としてシナリオと併せて、2030年と2050年についてはSSP2を使用しました。このシナリオを使用し、定量的に分析を行いました。

※詳しくは「統合報告書2023」P50をご参照ください→

TCFDに即した情報開示

私たちはスポーツメーカーとして初めて気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明し、それに即した情報開示を積極的に進めています。シナリオ分析に基づくリスクと機会を特定し、そのインパクト・対応策を分析し、事業戦略へ反映しています。

	リスクの内容	事業へのインパクト	財務インパクト*／年	対応策
移行リスク	原材料価格の変動	石油由来原材料の調達コストの上昇	43億円 (2050年、4℃)	→ 財務影響を抑えた材料目標・ロードマップの策定 → サプライヤーとの連携強化
	製品表示規制の導入	規制への対応のためのシステム導入コスト・人件費の増加	13億円	→ 規制を早期に理解し、必要なリソースを確保 → 製品のカーボンフットプリント表示
物理的リスク	気温上昇によるスポーツ時間の減少	スポーツ機会（時間）の減少に伴う製品の買い替え頻度減少による売上の減少	24億円 (2050年、4℃)	→ 気温が上昇しても対応できる製品の拡大 → 屋外スポーツができる機会が減少しても対応できるサービスの展開
	台風、洪水の激甚化によるサプライチェーンの操業停止	生産委託先工場の浸水に伴う操業停止による売上機会の喪失	7億円	→ 自然災害リスクが高い地域にある生産委託先工場を認識したソーシング戦略

*2022年度のデータに基づき算出

機会の内容

機会

顧客基盤の拡大

→ 気候変動への積極的な取組みを通じて新たな顧客層へのエンゲージメントを高める

低炭素製品・サービスの開発・拡大を通じたイノベーション創出

→ サステナビリティと機能性を追求することでイノベーションを創出
→ CO₂排出が少ない製品・材料の開発
→ CO₂排出が少ない価値創造（新ビジネス領域）の特定、構築

気温上昇に対応した製品・サービスの展開

→ 人間工学研究の知見やデジタルを活用し、どんな環境下でも快適にスポーツを楽しめるソリューションを提供

サステナブルファイナンスの活用

→ 企業のサステナビリティパフォーマンスと透明性を向上し、グリーンボンドなどの積極的な活用により、効率的な資金調達を実施

Message From the COO

2025年、アシックスは業績と事業運営の両面において着実な進展を遂げました。経営基盤が強化された一年であり、社外から評価いただく機会も増えました。

これらの成果は、社員一人ひとりの熱意と実行力に加え、お客様やビジネスパートナーをはじめとする社内外の多くの方々からのご支援によるものと確信しています。

持続可能な成長を支える強固な経営基盤を構築するため、アシックスはデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組みを継続的に推進するとともに、透明性と高い倫理観に基づく責任ある事業運営の基盤強化を進めてきました。2024年にサプライチェーン・トレーサビリティシステムの導入を開始したことに続き、2025年にはサプライチェーン全体の可視性を段階的に高め、その取組みをさらに発展させました。また、サプライチェーンマッピング、責任ある調達、製品の品質・安全性を統合的に管理するエコシステムの構築にも取り組んでいます。こうした継続的な取組みを通じて、責任あるリスク管理能力を強化するとともに、ステークホルダーの皆様へさらに大きな価値を提供していきます。

気候変動対策は、アシックスにとって極めて重要な優先課題です。2050年までのネットゼロ達成に向け、2025年には製品カーボンフットプリント、スコープ1・2・3の排出量を可視化・算定するためのデジタルプラットフォームの導入を開始しました。

効果的な温室効果ガス排出量削減目標の設定や進捗管理、そして気候変動対策を加速するためには、信頼性の高い高品質なデータが不可欠であると、私たちは確信しています。

また、ランニングエコシステムの拡大や「Run for Reforestation Challenge」などのプログラムを通じて、お客様とのつながりの強化にも取り組んでいます。特にランニングエコシステムでは、レース登録サービスをグローバルに展開することで世界中のランナーとのつながりを広げるとともに、タイおよびスペインのレース登録会社をグループに迎え入れ、さらなる成長に向けた基盤を強化しました。グローバルに展開するレース登録会社を通じて、アシックスならではのランニング体験を提供し、アシックスブランド体験の価値向上を図っていきます。

COOとして、この急速に変化する環境の中で、アシックスを次なる成長ステージへ導く機会を得られたことを、大変うれしく思っています。

サステナビリティを事業の基盤に据え、ブランド体験価値の向上とグローバルサプライチェーン全体におけるデジタルトランスフォーメーションを推進することで、事業成長をさらに加速していきます。そして、持続可能で倫理的な事業活動を実践するとともに、スポーツが育まれる環境を守り、世界の人々と社会に貢献していく。これが、私たちアシックスの揺るぎない決意です。

代表取締役社長COO 富永満之



Appendices

チャプターハイライト

データテーブル **60**

レポートिंगについて **61**



PEOPLE データテーブル

従業員

各地域の従業員数	2023	2024	2025
日本	1,472	1,351	1,289
北米地域	1,314	1,206	1,149
欧州地域	1,556	1,584	1,744
中華圏地域	1,133	1,289	1,402
オセアニア地域	274	308	388
東南・南アジア地域	439	526	614
その他地域	630	713	867
全社（共通）等	2,109	2,010	2,002
合計	8,927	8,987	9,445

男女賃金格差 男性の賃金に対する 女性の賃金の割合	79.8%	71.6%	77.1%
障がい者雇用比率 (アシックス本社のみ)	2.9%	3.1%	3.6%

サプライチェーン

トレーニング参加者と監査工場数	2023	2024	2025
トレーニング参加者数	90	> 100	180
監査実施工場数	71	87	106

PLANET データテーブル

スコープ1

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023	2024	2025
オフィス	1,669	1,802	1,389
配送センター	765	797	712
工場	286	316	297
小売店	396	346	397
スコープ1合計	3,116	3,262	2,795

スコープ3

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023		2024		2025	
1. 購入した製品・サービス	596,452	82.8%	651,189	83.9%	734,872	82.4%
2. 資本財	18,452	2.6%	14,651	1.9%	33,016	3.7%
3.スコープ1・2に含まれない燃料および エネルギー活動	894	0.1%	820	0.1%	676	0.1%
4. 輸送、配送(上流)	48,433	6.7%	46,928	6.0%	66,536	7.5%
5. 事業から出る廃棄物	31	0.0%	46	0.0%	85	0.0%
6. 出張	4,465	0.6%	5,382	0.7%	5,563	0.6%
7. 従業員の通勤	416	0.06%	452	0.1%	423	0.0%
8. リース資産(上流)	-	-	-	-	-	-
9. 輸送、配送(下流)	6,531	0.9%	7,396	1.0%	7,905	0.9%
10. 販売した製品の加工	-	-	-	-	-	-
11. 販売した製品の使用	16,275	2.3%	17,050	2.2%	9,485	1.1%
12. 販売した製品の廃棄	28,465	4.0%	32,102	4.1%	33,766	3.8%
13. リース資産(下流)	-	-	-	-	-	-
14. フランチャイズ	-	-	-	-	-	-
15. 投資	-	-	-	-	-	-
スコープ3合計	720,414		776,017		892,326	

スコープ1・2・3合計	741,619	793,582	909,355
--------------------	----------------	----------------	----------------

* アシックスはサプライチェーンでのバイオ燃料の使用を確認しており、サプライヤーと連携してデータ収集を開始しています。今後、アシックスは、使用されたバイオ燃料の使用量を把握し、バイオ燃料に関係するGHGプロトコルにおける変更に合わせて計算を準備および開示するための活動を進めてまいります。

スコープ2（マーケット基準）

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023	2024	2025
オフィス	1,664	925	1,127
配送センター	2,163	1,731	1,743
工場	624	631	182
小売店	13,638	11,017	11,181
スコープ2合計	18,089	14,304	14,233
スコープ1・2合計	21,205	17,565	17,029

スコープ1・2

CO ₂ 排出量原単位 (売上高百万円あたり) (単位:トン-CO ₂)	2023	2024	2025
	0.037	0.026	0.021

「サステナビリティレポート2025」の発行にあたって

サステナビリティレポート2025では、アシックスのダブルマテリアリティ評価の結果を基にして作成された重要テーマにわたる、アシックスのサステナビリティのビジョン、戦略、目標および活動について説明しています。

本レポートは、継続的な報告の一部であり、2025年におけるアシックスのサステナビリティパフォーマンスが反映されています。サステナビリティレポート2025は、2026年6月30日に英語版が発行されています。

本レポートはそれを日本語に再編集したものです。2025年のレポートの対象期間は、2025年1月1日から2025年12月31日までとし、アシックスと連結子会社を対象としています。このレポートは、アシックス統合報告書と併せて使用されることを目的としています。統合報告書は、サステナビリティがどのようにアシックスのコアバリューと事業戦略に組み込まれ、価値創造を高めているかを示す、より広範な視点を提供しています。

ほかに指定がない限り、共有されている情報は、アシックスの全世界での活動が対象となっています。本レポートは、GRIスタンダードにしたがって作成されました。

ステークホルダーからの情報は、アシックスの戦略およびサステナビリティに向けた取組みに重要であり、本レポートについてのフィードバックを歓迎いたします。





©2026 ASICS Corporation.
All rights reserved.


sound mind, sound body

〒650-0021
神戸市中央区三宮町一丁目2番4号 大和神戸ビル
050-1745-2248
<https://corp.asics.com/jp>